

層富

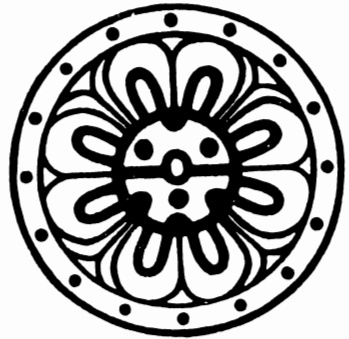
(川口勇書)

会誌名「層富」(そほ・そふ)の由来

私たちが住んでいる平城ニュータウンの地域は、古代には「層富」または「曾布」「添」とも記され、「倭六県(やまとのりくのあがた)の一つでありました。出典は『日本書紀』の神武即位前紀己未年の春二月壬辰朔辛亥(20日)の条にみえる「層富県」によりました。

題字もはじめ小さく、あと大きくしましたのは皆様の将来と本会の末広の発展を願ったものです。

古代大和の由緒ある地名を理事会の賛同を得て会誌の名としました。ご愛顧の程を。(網干善教)



会章

平城ニュータウンの「平」と文化協会の「文」を上下に組み合わせ、単純な円形にまとめ、音如ヶ谷瓦窯跡から出土の古代軒丸瓦の中央部分に配置したものです。蓮華の中の埴輪の顔のようにも、二人三脚で楽しんでいるようにも見えます。

(基本デザイン 朱雀・寛裕)



第十六号 目次 一九九九年

巻頭言……………	網干 善教	1
記念講演		
邪馬台国とは……………	網干 善教	2
私の歩んだ道		
芸術と人生……………	梶野 哲	6
ある明治人の日記(一)……………	絵内 正久	17
飛火野 春秋より……………	荒居 智子	23
漢詩……………		25
俳句……………		26
〈随想〉 私の「獅子座の流星群」騒動記……………	木庭 昭	33
男の美学……………	坂田 定彦	34
ワープロで本を作りませんか?……………	小西 淑彦	36
〈随想〉 『余談』……………	廣田 好寛	38
短歌……………		41
グループからの便り……………		49
第十六回文化祭記録……………		95
一九九九年総会記録……………		100
会則……………		107

はじめに

会長 網 干 善 教

私たちの平城ニュータウン文化協会も発足以来二十年近くになってきた。それぞれの人が、ここに住むようになってから三十年、二十年、十年、五年と人によってその時間差がある、見えてきた風景にも違いがある。昨日の上に今日がある。今日の上に明日がある。その明日が今日より良きものであることを願うが常である。

文化協会も発足当時からかなり変化してきた。仕組も会員も、傾向も変化している様相がみられる。男性の方の参加が多くなった。御夫婦で来られる方も増加してきた。反面老化の傾向もみられる。どうすれば次代を担って下さる若い人たちに魅力、関心をもってもらえる内容や運営をしたらよいか、大きな課題に直面している。

みなさんの積極的な御関心と御支援、御協力によって充実、発展させていくことを祈念したい。

総会記念講演要旨

「邪馬台国とは」

多くの日本人が古代史上大きな関心をもっている課題の一つに「邪馬台国はどこか」「女王卑弥呼とは」といったことがある。大規模な弥生時代の集落や銅鏡などが出土すると新聞やテレビなどでは「邪馬台国ではないか」といって報道が行われる。そしてその所在地が、北九州の地域だ。大和を中心とする畿内地域だ。いやそのようなところではない。といった意見が出されてくる。これは邪馬台国の所在を決定、あるいは確実視するような史料や資料がないからである。それと邪馬台国とはこのような条件をもつところであるという根拠もとばしい。いざどこにでもあるような条件しかないということかも知れない。

例えば、大規模な弥生時代の集落が発掘された。そう

関西大学名誉教授 網 千 善 教

すると邪馬台国かも知れないということになる。九州に須玖とか吉野ヶ里という遺跡がある。奈良県だって田原本町に鍵・唐古という大きな遺跡や三輪山の麓に纏向遺跡というのがあつた。最近では大阪泉南にある池上・曾根遺跡が発掘されたり、兵庫県や滋賀県でも大規模な集落が発掘されている。

大きな建物が発見された。それ邪馬台国かということが話題になる。池上・曾根遺跡で弥生の神殿とかいって大きな建物が復原されている。唐古遺跡から出土した弥生土器の器面に大きな建物の絵が描かれていた。邪馬台国の家かということになる。九州では佐賀の吉野ヶ里遺跡には樓閣とか称して大きな建物が復原されて観光の名所となっている。

遺跡や古墳から多量の鏡が出土した。このように鏡をたくさん所持しているのは邪馬台国であろう。それは魏の国王が邪馬台国の女王卑弥呼に銅鏡百枚を贈ったと魏書に書いてある。この鏡であるかも知れない。という想像が生れる。鏡の多量出土した遺跡は北九州にある。戦後京都南山城の椿井大塚山古墳で三十数面の鏡が出土した。最近では天理市柳本の黒塚古墳からも三十四面の鏡が出土した。同じ鏡でも三角縁神獸鏡という形式の鏡が魏王から卑弥呼に贈られた鏡であるという意見もある。しかし贈られた鏡は三角縁神獸鏡でなく方格規矩鏡だという人もいる。また鏡の年代と古墳築造の年代が合致しないという見解もある。要するに鏡からは邪馬台国の位置は決まらないということになる。

このようにいくつかの条件を挙げて、その条件を満たすということになれば、それはあちこちにあって結論論的にはどこともいえないということになる。だから、どこかわからないから、すなわち謎めているから面白いということになる。自由に推理が楽しめるということになるか。最近またはやりの推理小説のストーリーを探ぐる楽しさに共通するということで邪馬台国論争に興味を

もたれるということであろうか。

古代史や考古学の研究者は誰もが邪馬台国はここだという意見をもっていていると思われるだろうが、そうではない。もし関心をもっていたとしても積極的に自己主張し発言する人とそうでない人がいる。自分では考えていても、決める条件がないから、真実が分からないから、人に誤解を与えてはいけないからといった立場で発言しない人が多くいる。

積極的に発言する。しない。は別として、邪馬台国論争に関心をもつ人、女王卑弥呼を口にする人は、せめて邪馬台国のことが書いてある『魏志倭人伝』は読んでおく必要があるだろう。一度も見たこともなく、読んだこともなく、ただ聞いただけでは十分とはいえないと思う。邪馬台国、卑弥呼のことが書いてある部分は短い文章であるが、中国の文献であるので用語や表現の難しい漢文だから読んで、簡単に理解できないと思う。そこで今日はその核心の部分について読み方と用語と大意を説明してみたいと思う。

この本は正式には『三国志・魏書卷三十』、「東夷伝・倭人」の条である。これを略して『魏志倭人伝』という。

最初に

「倭人は帯方の東南大海の中に在り、山島に依りて国邑を為す。旧百余国、漢の時朝見する者有、今使訳通する所三十国。」

とある。

そして、倭人の住んでいる倭国に行く道程が示されている。その中に

「南、邪馬台国に至る。女王の都する所」

とある。すなわち、邪馬台国は多くの倭国のなかの一国である。問題の第一はここに挙げている諸国の方位と距離が示されている。ただこれだけから位置は決まらないという意見である。

次に倭国の風俗、習慣のことを書いてある。気候、作物、家屋、食事の方法、葬送のこと、などであるが、これらは当時行われていたことなのであるが、特別にある地域を示しているとは思われない。

次に邪馬台国について

「其の国、本亦男子を以て王と為し、住まる七・八十年。倭国乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王と為す。名つけて卑弥呼と曰う。」

とある。続いて

「鬼道に事え、能く衆を惑わす。年已に長大なるも、夫婦無く、男弟有り、佐けて国を治む。王と為りしより以来、見る有る者少なく、婢千人を以て自ら侍せしむ。唯々男子一人有り、飲食を給し、辞を伝え居処に出入す」とある。これは卑弥呼の様子について書いたもので、邪馬台国の位置と関係なさそうである。

次は、景初二年六月に使を魏の国に派遣した様子が書いている。そして魏の国王から「親魏倭王」の位をもらったこと、お土産を持って行ったこと、お土産をもらったこと、その品目と数量が書いてある。その中に「五尺刀二口」とか「銅鏡百枚」とかが見える。このうち「銅鏡百枚」とはどのような鏡であったのか、ということが論議となる。これも具体的なことが分らないから直接邪馬台国を決めることはできない。その他たぐさんの品物の名前が書かれている。

そして最後に卑弥呼が死んで墓を築いたことが書かれている。この墓とはどのようなものであったかは問題になるが、その時代の墓がどのようなものであったかの実態はよく分からない。

結局、この文章だけでは決め手になるものがない。そこで、いろいろな推理がなされ、その結果、こちらだ、あちらだということになる。

邪馬台国を考える場合、最初に行わなければならないのはこのプリントに書いてある『魏志倭人伝』を読んでみることはじめなければならない。

原文

『魏志』倭人伝（冒頭の部分）

倭人傳

倭人在帶方東南大海之中依山島爲國邑舊百餘國漢時有朝見者今使譯所通三十國從郡至倭循海岸水行歷韓國東南東到其北岸狗邪韓國七千餘里始度一海千餘里至對海國其大

并倭人

「芸術と人生」

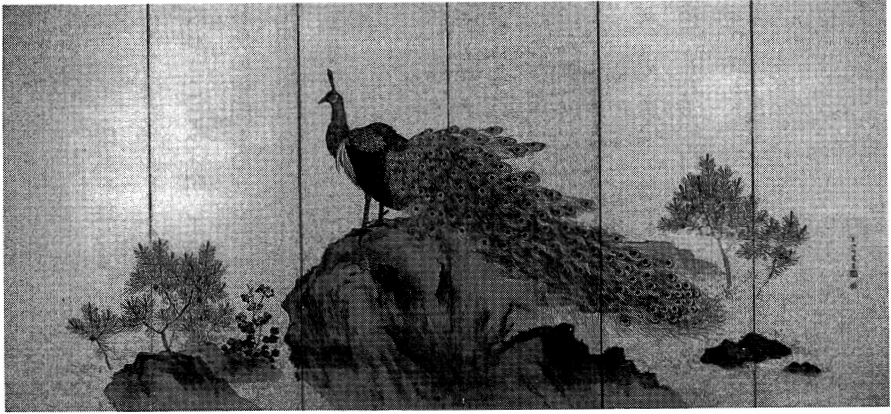
梶野 哲

芸術は人の心の表現と言われる。人生は千差万別であり、芸術も多様である。然し、個性も時代や環境という共通の影響を受けている。そして、芸術と人生との関係にも法則がある。例えば、私の祖父は〈芸術の為の芸術〉を貫き、父は〈人生の為の芸術〉を発見し、私は〈芸術の為の人生〉を生きようとして来た様に思うのだ。

京都嵐山天竜寺の龍の天井画の署名は、松年となっていたが、点睛以外は、祖父が描いたものであった。と言うのは、現在の竜は加山又造の作に替わっている故だ。加賀の国松任、現在の石川県松任市、代々の鍋鎌鍬掛の鍛冶屋に生を受け、幼少時より松本白華に師事、「南に白山あれば、我は玄山」と号した。京に登り、鈴木松年の門に入った。後に美人画で名を為した上村松園の兄弟子である。真宗中学で教鞭を執りながら、外遊帰

りで新風の展覧会派と謳われた竹内栖鳳に対抗し、古風の狩野派の末裔として「ちよぼちよぼ三年しゅう八年」という中国において形式化された画法の修業に徹しようとした。能楽喜多流の子女、直と結婚し、縁あって宮家のお抱え絵師となった。宮中の式典の装飾画や寺院の障壁画や掛軸等をもにした。

下鴨に庵を造り仙雲閣と称し、庭に何拾羽の鳥を飼って父に世話させたそうである。初期は北宗画風の山水や聖人等を描いたが、後年は細密で絢爛豪華な彩色の〈孔雀の画家〉として有名になった。伝統護持、旧弊墨守の職人芸は達人の域に到るも、権威や格式に把われて、流派を超越する事はなかった。孫の私達を呼び寄せ「陛下から賜った落雁である。有難く頂戴しなさい」と言われた。最高の名譽と思っていたのであろう。唯、晩年は幻想的な絵を描き、新機軸を出そうと志した様で



ある。

ところで先年

「松任市長が、

玄山美術館を建

てたいから、作

品や遺品等の寄

贈をしてほしい」

と遠縁の方から

話があった。母

は喜んで承諾し、

松任市展に玄山

賞等の計画も出

たが、不思議な

事に寄贈でなく

買上げ、代金を

寄附という形に

された。いつの

間にか役職の方々

も玄山作品の所

有者となり、当

初の話と違って、玄山の作風とは対極的な、破格で直情
稚拙を尊ぶ、近代西洋画の流れを汲む、中川一政の美術
館が建てられた。

父、あきらは玄山に学んだが、画家にはならず、高校理
乙科から医者を目指した。然し結局、独文から美学に専
攻を転じ、文芸学者になった。美術館に勤めたが、兵役
となり、拾何年も家族を置き去りにした。その結果、ソ
連の捕虜とりことなり、厳寒の地で炭坑労働をすることになっ
てしまった。当時、環境の激変げつへんと過労と貧しい食事の為
か、衰弱死が頻発した。「栄養不足等だけではない。皆
んな日本へ帰れないと絶望している。衣食足って礼節を
知ると言うが逆ではないか」と思ったそうである。

そこで〈日本の田舎の昔話の劇〉を上演しようと決意
した。詩を創りたい人、戯曲ぎまぐを書ける人を募もった。手
に入る限りの凡ゆる材料を集めて、楽器を造れる人に頼
んだ。シーツを繋つなぎ、土で作った絵具や草木染等で、藁わら
葺ぶきの家や水車小屋や田畑や鎮守ちんじゆの森や五重の塔等の背景
画や舞台装置や衣裳いしやうを作り、上演した事が奇跡を起こ
した。皆んな泣いた。過労なのに勇気が湧き、孤独では

ない助け合えば出来るという実感、日本へ帰れるという希望、忘れていた様々なことを思い出した。そして今迄と違って、雑草を食べても栄養になる様になった。「どんな苦境に当面しても、人間は芸術の力によって生きられる」ことを証明したのだ。その後、ドイツ兵の捕虜収容所の慰問も命ぜられる等、劇団の活動は様々な困難を克服しながら続けられ、寂寥の心を暖め、人々の精神の支えになったそうである。この事が契機となり、父は注文を受け、将校官舎等に壁画を描き、喜ばれたそうである。

数年間の苦労の後、最後の復員船で帰還した。長期の失業の後に大学教員になった。教職員組合や学内保育所作り、大学紛争の解決や「十五の春は泣かせない」の合言葉で有名になった高校全員入学運動等に尽力した。定年退官後は嵯峨美短大の創立に参画したり、若い頃に須田国太郎など大学の先輩と作った同人誌を思い出して、「ヴィーナスの誕生」という小説を書いたりした。「これから本格的な学問研究をするぞ。戦争で失った時間を取り戻すのだ」と言って、書齋を間接照明、エアコン設備等して、不眠不休で読書、論文書きに没頭した為に倒

れた。膨大な原稿が積み上がっていた。弟が父と同業だったので「纏めて本にするから、安心して」と言って仕舞った。後日「ドイツ語だけでなく、何語か解らん言葉まで使って書いてある。翻訳だけでも大変だ。俺の研究が出来なくなる」と頭を抱えていた。

弟は、最初は詩人だと言っていたが、ドイツ留学後は言語学や宗教学、芸術学を研究する様になった。「定年退官後は画家になる」等と言っている。妹はピアノをタイプライターに替えた後に、専業主婦となった。末弟は歴史学や法律学を学んだ後、出版社の編集者となった。

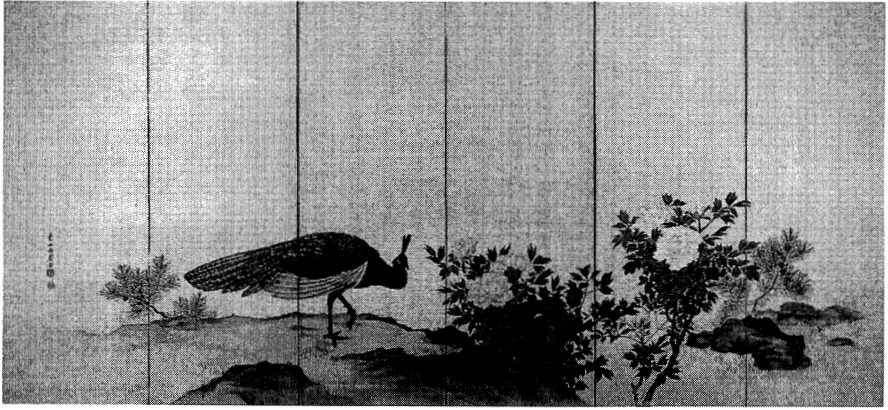
ところで、私は、祖父も父も母も敬遠して育った。祖母が謡曲や仕舞を仕込もうとしたが、一向に上達しなかった。幼稚園に連れて行ってもらったが、祖母が代わりに体操等して呉れているのを見ていただけで、三ヶ月程でやめてしまった。高野川の魚採りで泥んこになり、樹上に小屋を作って泊り込んだり、蜘蛛を沢山集めて部屋中に巣を張りめぐらせ、母にひどく叱られた。尋常小学校の時、祖父が亡くなった。親戚の人達が遺作や遺

品を形見分けされた。筆や硯、絹や岩絵具まで消えてしまった。そんな或る日帰宅すると、私の宝物だった切紙細工が全て失くなっていった。三歳頃に父に習い、反古で足らず、本や弟妹の雑誌まで切り、柳行李三つに仕舞い、毎日取出して一人遊びしていた。母と祖母を問詰めると「燃やしてしまった」と言われた。怒りと絶望で、何も食はず死んでやると思った。「死んだらどうなるか」と訊くと「突然何を言うのか解らない事を、でも井嶋勉先生なら、お父さん代わりだし哲学者だから教えて下さるかも」と頼りない答だった。意外だった。それ迄は、自分が世界の中心だから、自分が死ねば世界も消滅すると思込んでいた。然し、腹がへるに従って、自分一人だけが死んで、何も変わらないのではないかと不安になった。相対的自我に目覚めたのだ。それで、死んで堪るかと思き直った。

学校では相変わらず落ちこぼれ、上級生が恐ろしく見えた。いじめられると同級の女の子や弟が助けて呉れた。それなのに、内弁慶は治らなかつた。母達が「この子は勉強も運動も駄目だが、手先が器用だから、医者か絵かきにしたら」と噂しているのを聞いて、絶対に器用に

なるものかと決心して、鉛筆をボロボロに削ったりした。四年の時、父を頼って上海に渡る話が持上った。仙雲閣を父の友人の上野照夫家に譲って、中京の伯父の所に間借りすることになった。然し幸か不幸か、輸送船が沈没して、計画が駄目になった。仕方なく、国民学校に転校した。その年の文化祭に、米軍のB29爆撃機撃墜の絵を出品したら優秀作として展示された。只の雑誌の挿絵を模写しただけだったので凄い劣等感と罪悪感におそわれた。後年気づいたのだが、当時の絵の授業は模写が多かつた筈なのに、不思議な事に今もその時の変な気分を鮮明に覚えている。

算数の授業の時、担任の先生が成績順に「天才、秀才、神童、凡人、白痴、魯鈍、痴愚」と綽名をつけ、最後に残った私と友人を「気違い。もう勉強しなくていい」と怒鳴った。その為に二人だけ、中学進学の為の内申書を作って貰えなかつた。その年の公立中学は定員割れの故か、無試験で全員入学となつた。私は私立中学合格の報告に行つたが、門前払いされた。中学では、兵隊紛いの服に禁衛隊章を着け、模範銃を担がされ、軍事教練に明け暮れた。国民学校の時、登校時にルーズベルトと



チャールルの人形の頭を竹刀で叩かされたのより酷いと思った。海兵部の琵琶湖漕艇練習だけが戦争を忘れさせて呉れた。

弟妹は農村へ集団疎開していたが、暫くして、医者であった母方の祖父と一緒に、播州赤穂に疎開し、私は尋常高等小学校に転校した。授業は、歴代天皇名と君ヶ代と軍人勅諭を覚え

させる年三回だけで、畑仕事や柴刈や塩田作業ばかりだった。堤で、グラマン戦闘機に銃撃され九死に一生を得た。米兵の嘲笑する顔が忘れられない。

或日突然、父が帰宅した。再出征に決まったそうだが、お蔭で数年ぶりで赤飯にお目に掛った。然し、弟妹を目の前でいじめたので、生れで初めて父に頬を打たれた。

敗戦後、元の中学に再入学した。「天皇は神だとか、菌が進化した鬼畜米英に神国が負ける筈がないと教えたのは間違いだった」と先生方が謝ったので、怒った上級生が職員室を銃撃したり、教室を壊したりした。私は〈民主主義〉という教科書の各頁に〈ブロンディ〉という新聞マンガを切抜いて貼り着けたり、授業中に落書きばかりしていたが、意外にも学業成績がトップになっていた。歳下の連中と同学年になって余裕が出来たこともあるが、小学生の頃から先生の話素直に聞かず「何でや」と疑いばかり持ったのが、戦後教育では「学問とは丸暗記する事ではなく、疑問を持ち探究する事だ」と評価される様になったからだ。それに、授業内容に希望を述べられる。興味ある事を研究発表できる。先生が一方的講義でなく、助言指導してくれる。実際に、市

役所や政党事務所や会社や工場や商店等を訪問して話を聴き学習した。ボールやバットやグローブまで手作りして野球をやった。弟が行商のアルバイトをして家計を助けていたので手伝って見たが、一日中足を棒にした帰りに氷菓子を買ったら儲けゼロだった。戦時中は芋の葉や茶殻や海草麵等を食べていたので、何もかも美味しかった。米国人の宣教師が鋤焼をご馳走してくれるというので、毎週バプティスト教会の聖書の会に行った。然し、洗礼という水に漬ける儀式を受ける話で怖くなって退会した。

新制高校一年終了の時、男女共学の公立の転校試験を受けた。家業を継げない者は仕方なく進学だが、私学では駄目だと思われていた。「お前など歓迎してない」と言われたが、父に教えてもらい必死に勉強して、ビリで合格した。憧れの女生徒についてカトリック教会に行っても、生徒会再建委員になっても、事務的な話しか出来ず、ラブレターを書いては破り捨て、父の真似をして《ゲートのファウストの賭の問題》の研究等をして、受験勉強をそっちのけにしたので、英数で不合格となり、予備校代わりに別の英文科に入学した。当時既に大多数

が大企業社員か上級公務員か法律家か医師等を志望、他の職業は落ちこぼれという觀念に取憑かれていた。戦後民主主義教育は挫折し、予備校的受験教育に洗脳されていたのだ。私は三ヶ月程の不眠不休の詰込勉強で疲労困憊し、夜と昼が逆転の状態だったので先ず健康と、「小学生の頃から運動会でビリだったから」と言って嫌がられたが、強引に陸上部に入り、朝から晩までグラウンドを走った。空手部にも入った。本科を棄てて、体育科のサッカー、水泳、テニス、バドミントン、バレーボールと手当たり次第に受講した。お蔭で、半年程で元気になった。結果、再受験は諦めた。「弟と同年になるぞ」との父の説得と、井嶋先生の「特美科が出来たんだから、転科したら」の勧めで、自分の過去を振り返って、誰に嫌われても初志貫徹したのは、幼年期の切紙細工だけだから、ライフワークは美術だと決意したのである。

転科後、親しくなった上級生に、夏休みも返上して、学校に泊り込んでまで、熱心に石膏像のデッサンばかりしていた人が居た。基礎基本が大切だと言って、遂に、記憶で再現出来る程になったが、急に筆を折り、退学されたと聞いた。乗馬の練習が先と思ひ込み、目的だった

僧侶に成り損ねた故事を思い出した。ところが、私も、

この事を反面教師に出来ず、アカデミックな美術教育観に呪縛じゆばくされていった。卒業後は、山間か離島など僻地へきちの学校に勤め、人間らしい生活をしたいと念じたが、果せず、「美術の本道ほんどうを目指めざしているのだから、他人よりも時間が必要だ。無理な就職を焦あせらず、大学に残って修業したらどうか」と勧めて下さった伊谷賢蔵先生に感謝しながら、今を逃がせば一生乞食こじまになるのではないかとの不安感を払拭はらひ出来なかった。慌あわてて中学の非常勤講師になったが、驚いた事に、同僚となった田邊守人たなべりつとという人は、作詞、作曲、作画を同時に指導することが出来る凄すばい才能の持主で、生徒の信望も厚く、私など恥づかしくて教壇きょうだんに立てない程の劣等感れつとうかんに嘖いんまれた。

次の年、中学の募集がなく、高校の講師に変わった。着任早々、美術部員を集めて話をした際、意識過剰いしきかじじようの為か、皆の作品を酷評こくひやうした。その為に大多数が怒って退部たいぶしてしまった。ショックで須田先生に相談し、「生徒の長所を讃ほめずに教育は出来ない」と戒いましめられた。

そこで指導主事の富田民治先生、曾根靖雅先生やすまさの教示を受け、原口好博先生が担当されている小学校の図工の授

業を見学した。「何を描こう、造ろうと導入するのでなく、創ろうと自ら想う様に、動機づけが大切だ。児童は自分の生活体験を基に、材料選びも方法も技術も発見し、創造するのだ。教師の役割は、自由に出来易い様に、環境と状況を創り出すことだ」との実践と、小学校美術館の児童作品の発想の奇抜きぱつさと造形の力強さに圧倒された。

高校に戻って又、不思議な経験をした。定時制の授業中、全く制作しない生徒が居た。期末に初めて理由を話してくれた。小学生の時に金が無いので醬油しょうゆで描いた絵が、全国児童画展で最優秀賞だった。先生方は喜び、絵具等を買ってくれた。次の年も受賞したが、義父に見つかり「暇があるなら家事を手伝え」と鉄拳制裁てつけんさいざいを受けた。恐ろしくなり、賞状も作品も破り捨てた。以来、描けなくなったそうだ。私は配慮はいりよして合格にしたが、他教科の欠席も多くて、進級出来なかった。退学後の或日「画家になりたい。他に生きようがない」と言って来た。「無理だ」と答えても納得しないので、画材店に連れて行って、不良品だが使える画材等を買もって来た。使用方法を訊くので、絵具や溶剤の性質等を説明し「好きなもの

を気軽に描けば良い」と言った。彼は幼児期の思い出や花等を強烈な筆致で描いた。そして一作出来上る度に、夜中でも電話で、見に来てほしいと頼まれるのには些か参った。暫くして「僕はもう駄目だ。基礎が全く出来ていない。美大へでも行けばと友人に言われた」と、そんな事は当初から自明の理だ。例えば合格出来たとしても、教師になるのであれば無意味なのだ。気にしないで、今迄に完成した絵を持って芦屋へ売りに行く様に勧めた。そこで藤本義一先生に出会った。結構儲けたので、「ヨーロッパ遊学したら、大阪弁は世界中通用するぞ」と教えると、本当に出掛け、一年程で沢山友人を作った。「作風が合ってる。独立展に出品してみたら」と言うと、瓢箪から独案で、同窓で大先輩の池島勘治郎先生の目に止まり、新人賞受賞、やがて会友推挙となった。藤本先生が後援会長となって下さり、西武百貨店主催の個展、等で国際的な画家になった。私は、井嶋先生の日本美術教育学会や鶴崎熊太先生の新創美術協会で、永年、学校教育の中での美術教育や美術専門家教育について学んで来たが、いくら自由な教育といっても基礎基本を度外視した体験は初めてだった。

ところで、当地に来たのは、この桜井洋美(号通天)君との縁でもある。他にも、妻が奈良の学校出だから、きつと好きだろうとの独り合点もあった。又、京で二十二年暮らし、定期券まで買って写生に通ったのが縁で、大阪二十年、妻の出身地の志摩半島への写生旅行が二十年と切りが良いので、次は奈良と思ったのかも知れない。他にも、友人の話に惚れてメキシコで暮らそうかなと思っただのが、交通事故で重傷を受け、諦めねばならなくなり、日本で養生を決意したことも事情の一つであった。しかし、入居早々「班長の順番ですよ」と言われ、次は、班長の中で一番年長だから、神功の初代自治会長と決められてしまった。その上、平城ニュータウン自治連合会長の稲田武一さんが「地藏さんの握り飯を何時までも持っている訳にはいかん」と言って突然退任された。後継者が見付からず、副会長の安達作造さんが「今は会社の副社長なので無理だが、来年なら暇が出来る。それ迄の半年程、神功自治会の誰かが繋いでほしい」と言われ、「神功自治会の仕事は副会長の私が全て代行するか」と松村豊さん。通院休暇を使えば、何とかなるかと思っ引受けたのが始まりだった。翌年急に頼みの綱の

安達さんが転居され、バトンタッチが出来なくなった。

その頃、右京小学校の畠山典久先生が、スポーツ少年団を地域に作ろうと働きかけられ、稲田さんを中心に、「神戸の灘のスポーツ協会に学ぼう」という運動が始まった。私は実務の担当という事だったが「テニスコートも無いのに、沢山募集して」と叱られたり、バレーボールや卓球やバドミントンの講習会、鍵田忠三郎市長を呼んで来て武道会の旗揚げと右往左往していた。

何故これ程熱心だったかと言うと、私が二十代の頃に渡欧し、科学的体育法を勉強した事が契機である。当時体協は「スポーツは根性だ」と言って、無視していた。

認められたのは、機器を輸入してトレーニングセンターを開設し、奈良国体委員、バレーボール県代表チームのコーチとなり、国体で三位入賞してからである。ところで私は「ヘスポーツは、芸術？である」と思う様になった。だから、一所懸命にやるが、勝敗を重視しない。負けたら悔しいが、勝者を偉大とは思わない。芸術は、虚構である。競争や球技は勿論、格闘技ですら真剣勝負はしない。約束事の中で、演技をしているのである。且て私は空手演武をしていて、ダンスの構成に興味を持ち、

舞踊団に入った。又、運動会の指導をしていて、仮装行列が野外劇に高められるのを目撃した。スポーツの語源は、ギリシャ語の「暇つぶし」の意味の言葉である。だが、虚構を誤解して、ドーピングまでするマクワイアやソーサ、命掛けでしてしまったジョイナーも問題だが、野球賭博は犯罪でもサッカー籤は教育だという説まである。

又、大局的に、スポーツ活動が親睦や仲間作りだけではなく、人生の糧となり、良き社会に変革する力となると思っ て尽力した人は、当時、奈良市議会議員であった田中幸夫さんである。日本住宅公団の大津克巳所長と柳内七郎事業計画課長の協力を得て、地区公園に運動場やテニスコート、高の原駅前に佐藤忠良先生の「女神像」を、各近隣公園に集会所を設置して下さった。又、市立地元委託管理のコミュニティ・スポーツ会館や、地域スポーツ協会への市補助金という前代未問の事が実現したのも、平城山丘陵の緑が残されたのも、環境と活動を総合的、創造的に考察し、努力されてきたお蔭である。

同じ頃に、平城ニュータウン企画責任者であった住宅公団関西支社長の青樹英次さんは「机上計画を生きた

町にするには、住んでみなければ解らない」と、平城第二団地に住み、高の原駅前前の清掃奉仕をしながら、道行く人達の意見を聴かれたそうである。この事に感銘を受けた公団奈良営業所長で、右京自治会長の永田喜一郎さんが発意され、自治連合会副会長の大橋一二先生と三人で訪問し、網干善教先生に会長を快諾して頂いたお蔭で、文化協会が創立された。私は、絵画の会を作ったが、事務局の仕事が忙くなり、箕裕先生に会の世話をお願いする事にした。皆さん熱心で、当地区の文化祭のみでなく、京都市立美術館の展覧会にも多数出品された。カルチャーセンターの絵画教室の様な、昔の人の作品の模倣等の型に填った生命力の感じられない作品ではなく、日本のグランマ・モーゼスとでも言いたい自由な作品であった。ご存知と思うが、アメリカの農婦で、子や孫に高齢を理由に隠居を勧められ、暇を持て余して、刺繍を作った。上げたら注文が殺到した。手芸屋に相談したら「油絵なら短時間で描ける」と言われたので、使い方だけ教えてもらって後は勝手に、村祭りや耕作の風景等を描いたら、大統領の耳に届く程有名になり、ルーブル美術館が寄贈を頼みに来たという話である。私が、強調したいの

は、芸術と人生との関係という姿勢の問題である。

当時、野村信治、浅田旭彦さん達の努力で社会福祉協議会が結成され、又、児童憲章制定三十周年記念で〈平城ニュータウン子どもの幸せを願う〉教育講演会が、教育学会長の太田堯先生を迎えて開催された。これを契機として、奈良市教育長の藤井宗治先生の肝いりで、各学校園長を顧問とし、PTAや保護者会の役員を中心として、教育懇談会が結成された。

これで、当地区のコミュニティ活動の主要な組織が整うと思われたが、実は根本的な問題が残っていたのだ。それは〈村は農民や漁民が作り、町は商人や職人が造るものだ〉と昔から言われている。他にも牧畜や林業、役人や宗教家や医者や政治家や学者等もあるけれど、要はニュータウンには、職住一致という必然性が無いのだ。聞けば、田舎と都会の長所を兼ね備えた田園都市、大都会に勤務する会社員の為の近郊のベッドタウンという計画は、西洋では今世紀の始めに破綻していた由である。ニュータウンという響きの良い言葉に騙されていた。丁度、敗戦を終戦、占領軍を進駐軍、貸倒金を不良債権、税金流用を公的融資と言うのと同じである。何も生産出

来ない所で、高齢化少子化が進めば、将来が心配だ。その上、生活必需品の小売店が殆んど無くなってしまったので、遠くのスーパーまでは、車が無ければ、買物にも行けない。行商に頼るにも、不定期で不便だ。一方で、コンピューターのインターネットや携帯電話など間接的なコミュニケーションが増え、テレビやゲーム機などの映像文化が浸透して、自然環境や実体験が重視されなくなり、音楽や美術や文芸等の芸術ばかりでなく、衣服や化粧、食事や住宅等、生活様式まで、アメリカナイズされて来ている。又、昔は「水が変われば病気になる」等と言われたのに、今は野菜どころか水まで輸入している。食糧自給率は世界最低だと言われる。それに、五輪だ、レジャーだと浮かれ、泥船の上で騒ぐ狸の様に思える。「至れり尽せりの世話をしたら、お年寄りの方は寝たきりになったり、痴呆になったりされた。畠で一緒に花や野菜を作ったら、元気になって、芸術活動を意欲的になさる様になった」と社会福祉法人なのは会の大谷秀之さんは言われる。これこそ、芸術の為の人生、真の文化活動ではないだろうか。こういう訳で、私も、芸術の為に、少年時代を振り返り、耕作をやるうと思うのだ。

因に、芸術の「芸」という字の本字は「藝」で、略字は「ゲイ」、(心に種を植える)という意味。「芸」の方は「ゲイ」ではなく「ウン」と読み、(草を刈る)という意味の別字だ。稔なき草刈に終わらぬよう心したい。



ある明治人の日記（一）

絵内正久

三十年ほど前、京都の東寺の弘法市で一冊の日記帳を見つけた。大福帳を日記帳がわりにして、表紙に明治二十三年寅十一月吉日「記臆簿」裏は「大字大路井 南良吉」と墨書する。いまから百八年前だ。美濃紙を二つ折りにとじ、明治二十四年十二月末「目出度申納候」と記して終わる。文面から滋賀県大津町（当時）近在の大地主で琵琶湖定期巡航船を二隻所有する素封家の使用人らしく、南郷や坂本など湖東や湖西、京都方面へ小作料の取立て、山林伐採の立会い、乗船客の出札と主家の雑用をこまめにこなす。

漢学の素養と文章の巧みさ、毛筆書きの一面も崩さぬさちょうめんさから、律儀な二十歳後半から四十歳までの男性を感じる。もちろん私とはなんの関係もない未知の人物である。田舎の大路之井に母親ひとり残し、主家に住み込んでいたが不行跡をしでかして主人の怒りを買

い、母が代わって詫びを入れてやっと帰参がなかった旨を記して日記が始まる。

どうやら動乱の明治維新をその目で見つめ、肩ひじ怒らす最後の武士の姿を知り、文明開化の当今をざんざん頭に改め、もめんのたて縞に手甲脚絆で走り回って夜、机に向かって日記を書きとめる独身男が思い浮かぶ。少年時代に寺子屋へ通って読み書きを習ったか、学制発布早々の尋常小学校で教育を受けたのだろう。場所がら近江商人を目ざした一人かもしれない。世相にも敏感で、第一回帝国議会開院式当日の大津町の祝賀行事の貧弱さに怒り、明治天皇天長節の盛んなのを喜び、ロシア皇太子襲撃の大津事件に日露国交の将来を憂えるなど内外の情勢にも関心が深い。

ページをくると、大津事件の発端から終末までにかんりの紙数をさき、陸軍九連隊の軍旗祭、西南の役の戦死

者招魂祭、安政の大地震以来という愛知岐阜両県にまたがる濃尾大地震、滋賀県庁の彦根移転問題など噂話や新聞を引いてその記すところは詳細にわたる。友人らと三井寺や立木観音、京都祇園まつり見物、主人の供で大津から人力車で六時間かけた東大寺一泊の旅などの遊行記と、美文に魅せられて飽きない。早速、言い値で求めてその前後につながる大福帳日記を、紙くずの山をひっくり回して探したが見つからない。とにかく記憶簿の背に「丙の部」と書いてある限り、「甲の部」や「乙の部」があつて当然だ。

以来、私は南良吉の残りの日記帳を求めて毎月、東寺の弘法市に足を向けた。そのほか京三条の古道具街、北野の天神祭、大阪四天王寺など骨董市のあるところ必ず顔を出す精勤ぶり。それでもかんじんのモノはいまも手にできない。南良吉はなぜ自分の生きた証しの貴重な日記帳を手放したのか。遺族が知らずに売り払ったのか。知りたいことが山ほどある。彼の維新史も知りたい。西南の役を経て帝国議会開院にこぎつけた新生日本。間もなく始まる日清戦争を前に、彼は何を考えていたのだろう。

文体に漢文的莊重と誇張はあるものの教養をうかがわせ、詳細で性格、時に時世を激しく嘆く。友と酒をくみかわし、遊里へも足を向ける。悲憤慷慨する当時はやりの壮士風正義漢を思わせる。彼の日誌の公表を思い立ったのは、多くの方の目にふれて彼を知る手がかりになればと考えたのと、生き生きと描かれた「平民」の生活ぶり、本人への慰霊である。まず最初にやはり奈良閔連の日記を選んでみた。句読点は原文のまま、作字不能と思われる漢字は一部現代調に改め、適宜改行した。

◇明治二拾四年四月貳拾日 天気快晴に乘じ御主人祈念仏なる奈良県下東大寺内二月堂へ賽せらる。余随行を命ぜらる。午前八時出発し八町より腕車にて大谷山科醍醐六地藏の諸村を経醍醐黄檗の高山を右辺に臨み宇治に達し宇治川の東岸なる茶店に一休す。途一つの御陵あり何天皇の御陵たるを知らず修築工事最中にて成工の後には壯觀と思考す。同十時発車し宇治川木橋を渡る。水勢奔流し橋上の風景秀佳なり宇治山の名勝を右側に眺めて新田に至り休憩す宇治木幡は皇国第一の茶の産出する地なるを以て渺曠たる茶園畑能く人目の見渡す能わす。長池に至り松屋と称する料理屋にて喫飯を為し零時貳

拾分椀車玉水を過ぎ木津川の堤下を木津橋に至る途中梨畑多く、恰も満花の季に際し余輩をして一層旅中の壮快を加へしめたり。橋の渡し長さ百五拾間余幅一丈余川の中央にて橋渡銭を取る川中運輸船織るか如く満帆迅風を啣んで走流を逆登る所山嶽緑翠巖石の間に白帆の見ゆる実にあすすべきの景勝なり木津にて暫時休息し午後一時三分発車し奈良に向つて走る。

右側に神武天皇御陵遥拝所及び一小堂あり俗に念仏石と称ふ堂中に充てる大石なり此近隣は多く福祿を製す大和福祿之なり。少しく進みて一小坂あり山脉東西に連絡す此処を以て京都府奈良県の管轄境界とし大なる標柱立つ余の一驚を喫したるは農況にて最早植付を終る。奈良坂は数年前道路の改修と共に廃道となり新に大道の設けあるに依り乗車のままにて奈良へ入る事を得るなり般若寺を過ぐ堂塔数棟あり然れども本尊の堂宇とは無くして境内の中心に石造の墳墓大なる者數十屹立す是即本尊なりと云ふ。

東大寺北門に着す二時拾分なり緩歩正倉院を過ぐ正倉院は世に三つ蔵と称し昔時は諸人に倉中の宝物什器の拝観を許したるも今は宮内省の管轄に属し修理を施し高塚

を設けて晝夜警官厳密に護衛す。二月堂の前面なる茶店に休し暫時にして樓階に登り觀世音に詣す堂宇の結構宏大にして美飾を為し寄付篤志物の夥多以て靈蹟の著しき信仰者の多きを知る就中位置は山の半腹なるを以て景色佳なり恰も氣季春和に際し大坂より鉄道汽車開通し三月堂の開扇宝物展覽会とに依り名勝古跡を探らんと企つる雅客と神社仏閣へ参拝又は遊逸に来る者皆本堂へ参詣するが故に堂内騒賑たり

事務所に赴く所員等主人を見て驚き出迎ふ種々雑談主人贊助金若干を寄進せらる夫れより所員の先導にて石段を下り絹索堂開扉を拝す。本尊は不空絹索觀音脇土梵天帝釋日光月光四天皇執金剛神を安置す何れも御丈一丈五尺余天平時代の名作脱活漆像なり就中執金剛神像は日本第一と稱する程ありて尤優れたり金剛釋迦多宝箱金小像二軀は珍奇の作なり又不空絹索觀音の掛冠には典玉を以て飾り光輝粲然無比の御仏なり。

別室には什宝の展覽あり牧溪十六羅漢顏輝十六羅漢陳禱十九仙人光長の東大寺曼茶羅の画幅芝琳賢大仏殿縁起土佐將監執金剛神縁起の巻物其他聖武天皇 光明皇后等の経巻古代の舍利塔香炉袈裟俊乘房の遺物古代の革古面

を陳列して一覽の値あり。今三月堂の縁起を聞くに天平の昔良辨僧正東大寺を開基して聖武皇帝皈依崇法の願願不淺しほば屢輦まげ輿を扛まげさせられ紺殿堂宇巍然として高く雲表にそびへ就中本堂の如きは千有百年の星霜を洗ひ風そくも其旧形を存す慈に安置の執金剛神は良辨僧正の念持仏にして威嚴赫々たる靈驗奇瑞の仏像なり。

天慶の昔平将門の乱起るや藤原秀郷等此神に祈誓して抜群の勲功を現はしたり従是世俗開運の神と称し今に参詣の踵を絶たす云々と其仏像たる神韻奇功非凡の靈作にして実に美術社会の模範たり石段を登り二月堂にて護摩祈禱修法を乞ひ其間内陣に拝座す。三時三拾分終り手向山八幡宮に詣す東大寺中一の勝地にして社祠等宏大ならずと雖も美麗見るべきなり境内喬木小樹林を成し一小池あり邊涯の意匠頗る高逸雅致なり三町余にして旅館武蔵笠亭に着す四時なり本亭は三笠の山麓にして高燥の地全市街を眼下に風光賞すべく客室は凡そ一棟一室にして他に西洋造一棟あり周圍は種々の岩石矮樹ありて亭屋にて婢を招くに電鈴あり浴室には丁子湯あり抹茶を出す等客を遇する頗る周到なり。

日没頃余酔に乗じて三笠の名山の夕景を眺めんと欲し

主の許可を得て登る高さ二町余谷を隔て三重となる頂上に達す樹木無く一面の柴草にして市の火災消防夫演習に焼くと云ふ春日山は屹然として高く聳ゆる喬樹の間に東大寺大仏殿を眺め市の人煙稠密櫛比街衢端正自ら舊都の状を現す村落田園青澄たる池水散在し緑林の中より大社突出し遠山青翠延々雲に接し大道の漫々と見ゆる暮景の名画を見るが如く世人の賞辭轟言するの空しからざるを知る眺望久しく爽氣襟懐の塵を洗ふ體軀頓に軽く半ば仙となる覚え景勝足を止むるも意を決し走り下り室に入る。

◇四月二拾一日 午前八時春日大社に詣す宮弊大社にして本社楼門回廊等広大結構壯麗金石灯籠の献納夥し一愕を喫せざるは無し神鹿養育所より奈良博覧會を縦覧す会場は大仏殿及び其回廊にして入口には手向山八幡社の弓初式及び氷室神社の祭典楚駒の様式官女人形を陳列日本名所の写真鏡あり。売店には奈良大坂京都の出品多し就中余の目新しく思ひたるは絹繡画屏風にして京都市よりの出品なり羽織の房及び巻煙草を買ふ本館に至れば奈良独特の妙なる古器物の陳列あり其数夥多にして興福寺薬師寺東大寺円成寺室生寺法隆寺秋篠寺極楽寺靈山寺西大寺税所子爵水谷川男爵島田兵五郎氏福井三亥氏手

向山神社春日神社蔵等の出品にして仏像其他諸宝物祭具等なり。

運慶湛慶鳥仏師の作もあり着色模様古雅容貌魁異活潑今にも飛騰せんとするの趣あるあり何れも好古家の垂涎する所東大寺蔵聖武天皇筆木彫十字額にて昔時雲井門の額あり其文字の雅健なるは欧褚も及ばざる所水谷川男爵蔵には蒔絵の什器数種其他銅器古面楽器武具刀剣の類考古家の参考に資すへし。次の室は新物にて根来塗正倉院御物の模作など精巧粗製相半はず京都画家の出品あるも上作に非ず四五円の札付きたり次室は骨董物の売店にて仏像には運慶湛慶様の作有り鳥仏師の製有り弘法大師恵心僧都の仏画頼朝秀吉の書翰元信雪舟の画幅陶磁器等何れも立派な名を付し伝来を記す但値段の安きに比し買手無きを見れば其真偽推測すへからず岡喜作店は見るべき物もあるも値安からず。

外国人も多く見受けたり奈良博覧会は古仏に見るべき価あるも他は知らず。大仏は一人二銭以上寄進するに非されは内陣に入り銅仏を拝するを許さず。十二時旅舎に帰り大坂へ汽車便にて赴くため急き晝飯を命す午後一時発列車に乗らんとため腕車を駆り奈良倶楽部を過ぎ春日神

社第一鳥居あたりにて主人焦燥の余り旅館に入函を忘れたるを思い出さる余直に引返し搜索なし疾走興福寺の巨剎堂宇及び師範学校扉庁を右に猿澤池を左に望み停車場近傍に至れば己に一時を過ぎ列車の発したる後なり。

已むを得ず茶店に休し次の発車を待つ余思考するに奈良は旧都にして名勝古跡多く皇国人は勿論外国人も多く漫遊す又鐵道の便開通以来面目を改め一層の繁栄為したり三時二拾分大坂行列車に乗り郡山を過く同地は柳澤旧城跡にして和州第二の繁栄なり同四拾五分法隆寺停車場に着す法隆寺は山の中腹に在りて聖德太子の建立本尊の開扉宝物什器の拝観を得るを以て下車する人多し王子停車場を過く此処にて高田行き線路と分る四時二分に稲葉山停車場に着す亀ヶ瀬堅道は己に成るも其工事完全ならずして鐵道廳の検査に落第し開通に至らざるより亀ヶ瀬停車場まで歩行せしむるなり。

故に乗客一同下車し人力車に乗らんとする者多く需要供給相当らず。乗継に二拾八分間の予猶あるも強脚は免れても老人婦女子は此時間に達する能はず実に不便極まり人力車を競い入手せん為賃金を貧られたるも有る由平常は此区間の賃金は三銭の定めなりと雖も需要の過く

る時は八錢拾銭と騰りたり。亀ヶ瀬停車場まで其距離十町余大和川を南に渡り堤上を西し又川を北に渡るなり川中に巨岩怪石屹立し水勢激流恰も勢田川下流に髣髴たり四時三十分発車し柏原八尾両停車場を過ぎ平埜停車場を経平野川鉄橋を渡り天王寺停車場を経四天王寺の堂塔茶臼山今宮の商業倶楽部眺望閣の高層大なるを右に眺めて五時三拾分湊町停留場に着し腕車にて大里橋金屋橋堀江橋四つ橋新町花郭常安橋筋を経て土佐堀三丁目なる旅宿業芦田安兵衛一名河安方に着す時に午後六時前なり。

(次号予定 帝国議會開院式、天長節、軍旗祭、西
南役、招魂祭など)



八つになりし年、父に問うて曰く、「仏はいかなるものにか候ふらむ。」といふ。父が曰く、「仏には人のなりたるなり。」と。また問ふ、「人はなにとして仏にはなり候ふやらむ。」と。父また、「仏の教へによりてなるなり。」と答ふ。また問ふ、「教へ候ひける仏をば、なにが教へ候ひける。」と。また答ふ、「それもまたさきの仏の教へによりてなり給ふなり。」と。また問ふ。「その教へはじめ候ひける第一の仏は、いかなる仏にか候ひける。」と云ふ時、父、「空よりやふりけむ、土よりやわきけむ。」と云ひて笑ふ。「問ひつめられてえ答へずなり侍りつ。」と諸人に語りて興じき。

(『徒然草』第二百四十三段)

飛火野 春秋より

荒居智子

振り向けば鹿の澄む目に他人めく吾の写りて春の日関ける
クッキーのひとひらを持つ指先を甘噛む雌鹿の口中ぬくし
惑いつつ歩み入りたる寺庭の苔に落ちつぐあまたの沙羅は
佛像を見ると離るる友みつつ風音を聞く目眩い襲うに
軽がると山路を歩む友のあと重き荷を負う旅人吾は
魂を抜く法要の後御身ぬぐい白装束のあまたの僧は
大佛の螺髪の塵を叩きにてさやさや払う音の寂けさかそ

おん頭十五メートルの大佛の螺髪の塵が観衆にふる

お身ぬぐい終る大佛のおん面にこやかにして黒きかがやき

秋の日が塔頭を染める芝庭に遠き目をせる雄鹿の鳴けり

積む落葉の筒なすを踏む吾が肩を叩きて転ぶ一つ櫛の実

砕けたる落葉の匂う御社の鹿はひっそりと沼の目のいろ

頭をあげてきようと鳴きいる恋鹿の声の透けり秋のおわりは

木枯らしが飛火野の丘を駆け抜けて鹿の尻毛の白きを浮かす

降る雪の中翔けゆける白鷺の片羽根の影波瑠戸を横切る

風の研ぐ道になびける細雪若草山は須臾にしらたえ

飛火野の釜飯の店に立ちて待つ独り暮しの人この吾も

漢詩

片桐一夫

首丘風雪

狂風吹雪撲窓來
 極目紛紛如撒灰
 是正濃州舊時景
 再看萬里首丘臺

狂風きやうふうの吹雪 窓を撲うつて來り
 極目きやくもく紛紛と 灰を撒まくが如し
 是正これに 濃州 舊時きやうじの景
 再びみ看る万里 首丘しゆきうの臺だいに

平城社寺

平城社寺造贊香
 創建莊嚴千載長
 神佛和州官府地
 是會宮闕在留鄉

平城の社寺 造贊ぞうたい香り
 創建の莊嚴しやうごん 千載せんざいに長し
 神仏の和州は 官府の地
 是會かつて宮闕きやうけつ 在留この郷ごう

俳句

豪雪

牧野春駒

先頭となる背丈もて入学す
蛸に天台座主の駕籠据はる
秋蝶を秋蝶らしくしている黄
わが恋のごとくに縫れ実むらさき
晶子歌碑てふ一塊の露の石
小康といふ言の葉も露けしや
炭斗に前住の墨痕淋漓
巫女運ぶ函の高さも年用意
凍つまじと力を箆めて滝落つる
豪雪が人をやさしくしてをりぬ

はたた神

伊藤柳紅

初蝶に広き空なる一口いもあらひ

水に浮く花の隙間に雨の降る

はたた神何処に在す空青し

明け切らぬ空待ちきれず威銃おとし

切口の白さを見せて胡麻を干す

ふるさと

岡良子

久闊の歲月埋めて女正月

小犬の眼のぞくシヨールの合はせ目に

月の面を雲刷きとべる厄日かな

蜻蛉生れみどりの水面低く舞ふ

ふるさとを引き寄す架橋青葉潮

万緑

大浦小枝子

落の臺

柏木一枝

万緑の深さは闇となりゆける

摩周湖の夏空映しつづ透ける

約束をたがへぬ庭の彼岸花

末枯の色深みゆき月変る

猿沢の土手の屋台や初戎

白梅の華やぎ賞でし一人居や

日だまりにしやがむ足元露の臺

木の葉蔭環濠のなごり古りし町

草いきれ老にゆるさる物忘れ

子の丈たけにしやがみて話す七五三

鯉のぼり

喜多まさ

思ひつくままの体操春もゆく
四季のある国に生れて春惜む
吹けよ吹け大きく泳げ鯉のぼり
次の間もからりと開けて更衣
人の世の旅はいつまで竹の秋

綿虫

木村長子

老齡のずしりと重き初日記
永らへていく山河のさくらみし
泣くことを忘れて久しうろこ雲
白葱を貧者の贅と購へり
綿虫のこんな私につきまとふ

白の襟巻

込山山歩

奈良墨の香を聞いてをり初硯
薄紙に御目かくして雛納む
五条坂襪樓のごとき夏のれん
ご門跡白の襟巻おつむより
寒念佛先づ提灯の見えて来し

桜散る

周藤智子

夜の梅祝ぎ事終えて門閉じる
母の日は曾孫に並び坐りけり
山峡に師の墓洗ふえにしかな
あちこちと頂ききたる大根干す
若き骨桜散る朝おさめけり

七五三

多田文子

柿の花落ちて童女の友となる

女には年齢のなき秋日傘

三日月や娘の人生も変りゆく

七五三祖母も彩添ふ一張羅

千両の添へられありて仏花

ふらここに

辻田しま代

ポセットに履歴書入れてふらここに

布嚙んで動かぬファスナー著莪の雨

喪の家の塀に貼られし遠泳日

虹立つや石庭に観る砂紋引き

啄木鳥に柳行李は開けぬまま

水澄む

南村照栄

水澄みて子供の声はよく通り

文月や絵手紙の海まつ青に

鴟高音不満一杯あるごとく

返り花触れる木の幹あたたかく

読み返す悲喜こもごもの日記果つ

里まつり

西田たまみ

妥協とは黙すことなり茎立ちて

夏潮を大またぎして橋架かる

巢立ち雛葉かげに声をこぼしけり

龍の吐く硝煙宙に里まつり

赤子にも土踏まずあり冬日向

今日の月

西山 佐代子

襖絵の紺青照らす今日の月

顔見世の名跡継ぎて大向

餅花の枝垂れ丹波の豆を売る

手造りの封書届きし桃の花

流れ星落つる一夜の枇杷の花

寒椿

藤澤正富

拝殿の横に道あり寒椿

残雪に椿ぼとりと落ちにけり

探梅や蕾に香りありしかと

心経とひぐらしの声こもごもに

鐘の音の余韻をあとに秋遍路

『春閑歩』

藤井よし治

秋の蝶

藤澤陽子

探梅や見上ぐる遙飛行雲

武士の遺魂つわものの社梅やしら盛り

悪童も涙で答辞卒業す

春蟬や拍手の音杜もりに消ゆ

こぶし咲く山間やまあいを行く遍路かな

海猫のそこに鳴きたる稻架襖

薬壺持たぬ如来に秋の蝶

小さき蜘蛛小さき網を張りにけり

奇つ怪な煙あがりて狂ひ咲

還曆はお花畑の中にをり

雲の色

堀池敏子

げんげ田に煩惱の鐘ひとつ消ゆ
目の合ひて猫になかれぬ額の花
風鈴の鳴らぬ日のある雲の色
そのかみは御牧みまきの狩場芋の露
色鳥の落してゆきし羽一つ

聖霊会

三井サチ子

一周忌はやめぐり来てあやめ咲く
石垣に十華咲ける天主堂
まんさくの見落し来しを振り返り
ゆりかもめとぶ川上の水煙り
冬至湯の戻りの友とすれ違ふ

穴惑

牧野和代

杓の柄のひようと長くて佛生会
夕方の石崖熱し穴惑
中天の月より池の月やさし
読み耽ける巫女かんなぎ見ゆる枯木立
陵の神さぶ鳥居鴨浮寝

花曇

村上俊子

花曇御輿しづかに通りけり
紗の黒衣立てば金魚の翻り
鼓笛隊花野の道をゆきもどり
湯豆腐の一人に余る鍋煮ゆる
受話器おくより悴みてゆくこころ

花明り

森田陽子

睡蓮にモノの世界の広がりぬ
亡き君のみ魂 無明に螢飛ぶ
病棟へ夫見送りて秋桜
ペルーへと娘を發たしめて寒椿
神將の憤怒和らく花明り

睡蓮

和田美代子

着ぶくれて乙女の像を過ぎにけり
出逢ひより多き別れや春の雨
釜飯を待つ紫陽花の変化見て
幻のごと睡蓮も想ひ出も
休みなく流るる川も冬兆す

嬰

山内梅乃

ちぎり絵に託す思ひや草の花
孫といふ嬰に對面初桜
仲秋の大きな口で離乳食
全身ではふみどり子や運動会
増築の棟に木の香や秋桜



私の「獅子座の流星群」騒動記

木庭 昭

それは私が親元を離れて、地方の技術系の学校に居た頃の記憶の一頁です。

戦後間もない焼跡の下宿の部屋に只一冊、古本屋から入手した「ロマン・ロラン全集」の中の「獅子座の流星群」、何故かそれ一冊がありました。あの混沌とした時代、ロマン・ロランの思想に一種の憧れに似た思いで惹きつけられていた頃です。然し、ロランのこの革命劇には歯が立たず、古本屋へ逆流することもなく薄暗い六畳の部屋に、残されていたのでしよう。その後、幾星霜、新聞紙上で「獅子座の流星群」が話題になり、ふと昔の記憶が浮かび上ってきたのでした。

「ジャワーのように星降る夜……」報道の惹句に期待をふくらませました。しかもその日は私の誕生日ということで当夜の晴天を祈り乍ら待ったものです。

初冬とはいえ、夜の冷え込みはかなりなもので、宵に薄雲がかかりがっかりして寢床に入ったものの、やはり気になり、日付けが変った頃又起き出しました。二階のベランダに出て、少くとも二十個位、うまくゆけば五十個位は……何とかの皮算用よろしく、寒夜もなんのその天空を凝視して立ちつくしました。くろぐろと静もった空に星がゆったり廻り、時折かかる薄雲にハラハラし乍ら待った長い長い時間——。諦めて部屋に入ろうとした瞬間、細い鋭い線をひいて北斗七星の方に消えてゆくのが目に入りました。「やった——と叫んだ時、もっと大きなのが光りました。傍で金切り声が「ほら——スゴイ——」

兎にも角にも、たった二つだったけれど大きな流れ星を二つみられたことに満足した私達でした。翌朝のテレビ・新聞は「流星」の報道一色といいたい程、五十個み

た“人から一つもみられなかった”人まで。又天文台の測定時間・場所がずれていた等々、賑やかなことでした。

期待に反した一九九八年十一月十七日の獅子座の流星でしたが、私はハタと「ロマン・ロラン」の、獅子座の流星群”の内容を記憶していないことに思いあたりまし

た。

そのロマンチックな題名に惹かれた“ツンドク本”だったかかもしれません。

たった二つではあったけれど、獅子座の流星をみられたこと、そしてそれが想い出させてくれた私の青春の一齣………こういうことも生きて在ることの楽しさかな………などとノーテンキな平和に浸っている今日この頃です。

男の美学

坂田定彦

ロシアと対決したサムライを二人紹介をしたい。

まずは川路聖謨^{トシマツ}である。

一八五三（嘉永六）年ペリーに続いて、遅れじと露国艦隊四隻を率いて海軍中将プチャーチンが長崎に来航、

幕府は海防掛勘定奉行川路聖謨らを派遣し折衝に当たさせた。司令官プチャーチンの秘書（作家）ゴンチャロフは川路について「私達はみな川路を好いていた。総ての

ことは、彼の優秀な理知と聡明と鋭敏と経験を表すものであった。理知というものは何処も同じである。賢明な人には共通の表象がある。」と、その人となりを褒めたえている。

又、川路の尽力に依り、ロシア軍艦ディアナ号が安政大地震の津波により大破し下田に回送中に沈没した時、戸田村^{ヘダムラ}で木造船を一隻建造しプチャーチンは新造船へダ

号に乗って帰国した。

彼は先に一八四六（弘化三）年から五年半の間、奈良町の名奉行として貧民を救済するために私財百両を拠出したたり、毎年正月には九十歳以上の老人に銭を与えるなどの思いやりのある政治をした。桜と楓を植えるのを奨めて一八五〇（嘉永三）年に建てた「植桜楓之碑」は今も五十二段を上った西側に在る。江戸開城が決まった翌日に自決したのは義に厚い人柄を示す。

次に紹介をする元、陸軍戦車第十一聯隊長池田末男大佐であるが、不幸にしてこの史実は殆どの日本人は知らないのを声を大にして伝えたい。

一九四五（昭和二〇）年、日ソ不可侵条約を一方的に破棄したソ連は八月九日満州国に侵入、今日尚残留孤児の問題を残している。

更に終戦後三日経った八月十八日午前二時千島列島最北端の占守島（シムシユ島）を一日で攻略する予定でソ聯軍九千名が侵攻して来た。

既に武装を解除していた戦車第十一聯隊は他の部隊と共に協同し、急ぎ準備を整えた戦車から順次前線へ出動した。聯隊長池田大佐は砲塔から半身を乗りだし日の丸

を振りかざして敵陣に突入をした。ソ聯に新式の対戦車銃が有るのを知らず各戦車は次々と擱座炎上したが、恐れをなしたソ聯軍は水際に張り付いたまま二一日の停戦まで動けず、爾後九月二日のミズリー号の降伏文書調印式までに次々と島伝いに歯舞、色丹まで武力占領をしたが、ヤルタ会談で決めた占領する予定の北海道までは至らなかったのは、占守島の戦闘に手間取った為である。若し北海道に侵入していたら今日どのようになっていたであろうか。

前記プチャーチンとの日露和親条約ではエトロフ島とウルップ島の間が国境であった。

池田末男聯隊長も又、川路聖謨と同じく終戦の責めを負って玉碎されたものと思われる。敗戦の混乱の中で埋没して仕舞ったこれらの厳然たる歴史の事実は、戦争は罪悪だと抹消するのではなく、世人に周知するのが我々の語り部としての責任でなかるうか。

幕末と昭和に生き、恥を知る二人の武人の義に殉じた話である。

昨今、男は恥を知らず、女は羞らいを忘れた。

ワープロで本を作りませんか？

小西淑彦

本の出版には百万円以上のお金が必要と聞きます。

印刷だけならお手持ちのワープロでも充分きれいな印刷ができます。

印刷物の製本さえできれば、本ができるではありませんか。

図書館で製本の解説書を数冊借り調べると、殆どが難しい本格的製本の解説ですが、その一つの巻末に木工ボンド使用の簡易製本を見つけました。

これは頁が広く開く利点はあるものの、バラバラになり易い欠点があるとして、専門家は「無線綴じ」と呼びあまり勧めていません。

しかし素人の我々には簡単が何よりなので、試しにこの無線綴じ製本をしてみると、思ったよりしっかりし、また体裁も良く仕上り嬉しくなりました。

小冊子なら趣味の本づくりはこれでも充分楽しめます。

作り方

原稿はお手持ちのワープロでA4の用紙にB6を二頁づつの書式で袋印刷します。

袋印刷というのは少し面倒かも知れませんが、ワープロの取扱説明書を参照して、やって見て下さい。頁も打てる筈です。

頁が入ると本らしくなり、期待でわくわくします。次は校正です。誤字、脱字を調べて、原稿を訂正します。訂正が済んだ原稿はファイルに保存します。

校正済みの原稿を一部印刷します。折角製本するのですから入念に間違の有無を調べ、改めて一部印刷します。これが最終原稿です。

次に必要部数だけ印刷します。

ワープロ印刷でもいいのですが、時間と手間が意外にかり、印刷リボンの値段も高いので、十円コピーが安

く、便利です。

いよいよ製本です。先ずA4をB6二頁となるように半分に折ります。折り目は固く筋をつけます。

一冊分ずつ揃え、まとめてプレスにかけ（重しをかけて一晩おけばよい）、背をボンドで塗り固め仮綴じします。乾いたら三回位塗り固めて丈夫にする。最後に洋裁用裏地（ガーゼでもよい）を表紙よりひと周り小さくカットし、背の部分だけボンドで接着します。

仮綴本の背に接着した裏地を、あらかじめ用意した表綴にボンドで接着します。

本のタイトル（表題）をつければできあがりです。

費用

本の製作費用はコピー代が大半を占め、その他に装丁用の厚紙、布、ボンドなどで、例えば百二十頁でしたら、ワープロのリボン代も含め、一冊約千円でした。

因みに出版社に依頼すると一冊、約五千円が相場と聞きます。

装丁

高価な本は装丁にも重点をおき、内容にふさわしいデザインの装丁を専門家の手で作り上げています。

手作りならば表紙を作者好みのデザインの図柄の布で貼ると、手触りに厚みと温かさがあるので、一段と素晴らしいものになります。

始めは下手でも一、二、三冊と作り始めると、次第に上手にできるようになります。

こればかりはやってみないと、その醍醐味はわかりません。

手づくり本は最高の贈りものになります。



随想

『余談』

廣田好實

外は雨。手帳の日程表は白。電話無言。ゴルフも野球も、相撲もテレビ中継ゼロ。そんな暇に出遭ったとき、72歳の僕は痴ほう予防を兼ねて次のようなゲームを試みる。目の前に分厚い広辞苑。その一頁を無作為にパッと開く。目についた語源をタイトルに一文をものしてみるのである。

こうして今日選んだのがよだん〔余談〕。本筋以外の話とあった。となれば本筋をまず立てなければ。そうだが、「老夫婦の暮らし」。これを本筋にすればまつわる余談はいくらでもある。どこから入り、どこでピリオドを打とうと構うまい。余談はさておき、書くことにした。

よほどの異変をテレビが流さない限り、午後十時―午前一時は読書が最近の日課。だから目覚めも遅い。朝九時、女房のたててくれた緑茶をすすりながら寝床で新聞

を広げる。

いま新聞業界の技術革新は驚異的に進んでいる。といって「購読料を安くします」という記事にお目にかかったことはない。二紙以上の併読家庭は不況も手伝って、急降下現象。もちろんわが家に配達されるのも一紙。

広げた紙面に考古学上、古代史学上の大発見がデカデカと掲載されていたとする。他紙はどんな扱いだろう？フロアにゆったり腰を沈めて比較対象できるようなホテルは、いまのところニュータウン内には存在しない。

そんなとき、僕は家から歩いて十分先の喫茶店へ折を見計らって（客が少なそうな時間帯）足を運ぶ。大半の有力紙とスポーツ紙が揃えてある。三百八十円のコーヒーをすすりながらゆっくりと読み比べ、特異点をメモ。ママさんはコーヒーを飲み干すと、時にコブ茶を無料サービスしてくれる。

ひまわり館一階のレストランはコーヒー一杯が税込み三百二十六円。安いから文化協会の講義会後に有志が立ち寄り、二次会場としてよく利用する。割り勘が原則。

右京郵便局真下の交差点角に建つしやれた店はコーヒーだけなら四百二十円。ただし二杯目までなら同じ値段でお代わりが利く。天井がイエローの帆布なので自然の陽光に恵まれて明るく、清潔。女性客が多いのもうなずける。肩の凝りそうな本を読むとき、その店で一時間はねばることになっている。もちろんお代わり付きである。

◇ ◇

ことのついでに本代に触れよう。全五巻セット八万円ナリの『日本語彙大系』は別格としても、最近求めた森浩一編著の『古代探究』（中央公論社刊）は三二〇〇円、大村彦二郎著の『文壇栄華物語』（筑摩書房刊）は二九〇〇円、檀考研調査第二課長・亀田博著の『飛鳥の考古学』（学生社刊）は一九八〇円。

図書館利用も勤めてくれる友無きにもあらずだが、僕は生来悪癖を持つ。文章の有益部を蛍光ペンで塗りつぶさないと、読んだ気がしないのである。他人の本を汚してしまつては申し訳ない。

フィクションものは芥川・直木賞本にしぼり、歴史本主体に月十冊購入目標は一応果たしているが、その出費がバカにできない。でも有難い。岩波だけでなく他の大手出版社が新書版や学芸文庫本の製作に力を入れ始めてくれた点。

明大助教授・武光誠著の『地名から歴史を読む方法』（河出書房新社刊）は税込み七〇〇円、日本語研究家・小池清治著の『日本語はいかにつくられたか?』（ちくま学芸文庫刊）は八〇〇円。「万葉仮名の創設者は太安万侶。古事記で用いている」とあった。

SF作家・椎名誠が昨秋、岩波親書から本体六四〇円の『活字博物誌』を出した。彼は海外ものも含めて一、二を争う読書魔。一気に読破した。ジョナサン・スイフトのガリバーの物語を引用を一例にした文をお目にかけてよう。「ガリバーが漂着した小人国の住人は、身長せいぜい六インチ（約十五センチ）。ガリバーの一日の排泄物は彼らにとってみれば三四五キログラムにも相当する。二人の召使いはそのくらいでつかいかたまりを毎朝コンチクショウと言いながら運び出していたのである」。

つまり現代人の大きな悩みである廃棄物処理と対比さ

せているのである。

◇

◇

男女一人ずつの子に僕夫婦は恵まれ、子供たちも二人ずつ子供をかかえて遠隔地で一応円満な家庭を営んでいる。とはいえ初孫娘はテレビ・アナ二年目。あとの三人は大学在学中。每晚申し合わせたように交代で「祖父母健在なりや」と電話してくれる。次におねだりが来る。千円単位をはるかに超える。が子供は可愛い。

よちよち歩きの孫たちの時代をしのびながら、僕は暇があるとNHKTVの「おかあさんといっしょ」を見る。しぐさが愛らしい。こうして「だんご3兄弟」を覚えた。いま、その歌のCDはベストセラーと聞く。

老妻は結婚当初から専業主婦。今は五体満足で手のかからない老夫一人が相手だから、掃除、洗濯、献立、買い物、炊事と多忙そうだが一般の主婦よりゆとりがある。民生委員として近所のお年寄りの話し相手をつとめ、特老ホームでのボランティアにも精を出す。

「今日の相手は寮の中でも一番気難し屋のお婆ちゃん。でもね、荒城の月や故郷を優しく歌ってあげると途端に相好を崩して……涙をためながら、もっと聞かせて」

頼むのよ。」

そんな土産話にうなずき、小さいころに覚えた童謡や小学唱歌を思い浮かべながらハタと考えが改まった。いまの乳幼児にも介護を必要とする高齢化時代は必ず来る。鍛冶屋が無くなったからといって「村のかじ屋」の歌詞が消え、メダカが居なくなったからと「メダカの学校」が歌われなくなる。

ファミコンオンリーで鍛え抜いた指先から力が萎え、記憶力が低下した未来の高齢者に喜んでもらえるのは、「だんご3兄弟」だけでよいのだろうか——となれば、それはもう余談の枠をはるかに越えてしまう。



短歌

四季飛鳥

網 千 善 教

正月 飛鳥世にはじめて作る富本錢ふほんぜに妥女の持ちて新たなる年

春 さわらびの飛鳥の里に土深く埋れし銅錢せにはいかに使ひし

夏 飛ぶ鳥の明日香の川の水上みなに螢飛び交いねひわが寝の夜に

秋 彼岸にて柵田は緋色数条の曼珠沙華咲く飛鳥の風情

冬 飛鳥野は枯野となりてももの静か落日あすえし大津の墓は

山茶花

荒居智子

檜の実が落ちて踏まれて肥料ともなる土の上冬の日の照る
ほそ細と続く山路をたどりゆき獸の道と知りてもどりぬ
雨四日洗濯物のたるる下籠のみかんのそれぞれ
手に触るる花片もろく崩れつつ苔に落つぐ雨後の山茶花
かわたれの庭に下り立ち暗ぐらと籠る山茶花の花の香を聞く

山焼き

大浦小枝子

不況の波かぶりし去年を忘れむと薫つかむおもひに初戎参り
麓まで屋台連なり山焼きの点火を待てる万の人人
山焼きの点火十分前なる頂きに花火つきつき冬空染める
山焼きの神事を終へし僧兵ら下駄ひびかせて麓に降り来
飛鳥路に最古の富本銭出土して不況の地上にニュースは駆ける

生駒へ登る

岡田越子

石切りの地藏佛を一つづつ数へて登る八十三体

老体にむち打ち登る生駒山駄目かと思ひつつ頂上めざす

頂上に着きてひと息べんとうを開ける楽しさ又格別なり

下り道すいすい下りてはしやぎぬロープウェイもすいすい下りる

紅葉の赤と黄色を持ち帰り小菊を添へて秋を活けたり

目にうかぶ

片桐一夫

初春の朱雀の御門の青空を白き鳩群飛びあそぶ見ゆ

錦鯉鯉のあまた泳ぎゐるて神池に浮かぶ睡蓮揺るる

笹竹に願いの短冊母と結び乞巧奠せし幼き日うかぶ

今し出づる陽の警蹕を誇るかに煌きてあり明の明星

年せまる師走の空の青色を截りて陽に映え飛行機のゆく

腰痛考

木庭和子

細腰をあはれ一つき魔女の杖立つも歩くも夫君せのきみたのみ

歩く起たつあたりまへとふありがたさ思ひ知らさる魔女の一撃

腰がきまる腰がひけてる腰くだけ人の評価の重要な位置

月に「要」にくづきを添かなめはせ腰となせし古人の叡知ほのみゆる文字

直立し歩き始めしその日より腰痛はありしかホモサピエンス

芽吹く

沢田実子

冬枯の梢にすける山の峰弥生の今日を芽吹く気配す

デンファレ人の気配を感ずるかはつか触るれば香り流るる

芍薬の荅に蟻のむらがりて開かぬままに萎れゆきたり

賑らみし荅をぐつと持ち上げぬ月下美人は今宵咲くらし

こぼれ種ほどよき位置に育ちいて葉鶏頭見ゆる窓辺明るき

ロマンチック街道

玉置小代

はてしなきシベリア大地の上をゆく夫とふたりの旅のはじまる
ライン河の辺ほとりの店に購ひしワイングラスをいとしみて見つ
をちこちに教会の鐘鳴りひびくローテンプルは城壁の中
坂の上の草原に立つ聖堂に吾れも祈りぬ天井画仰ぎて
窓に寄り秋の絹雲ながるるをぼんやり眺む旅終へし日は

移住一年

寺嶋 勤とく
雄お

春よりは緑清しき平城山にしがらみ捨てて住居するかも
小夜奈良さよならとテールライトが消えてゆくたそがれつらき別れなるかな
平城山の独り暮しの移ろひて木の葉も君もかれし秋かも
節考ふしごうにあらねど世捨人我れの終つひの住家をならやまと言ふ
なにゆゑに平城山ひとり佗び棲むと笑えみて答えず桃花流るる

時の流れ

中川 都哉子

新春の空はかくまで優しきにこの国衰退に向かいているとう
幼ならの遊びの声の透りきて知らずつぶやく失う勿れと

絶ゆるなくあわあわあわと落ちてくる白き花びらをぼたん雪という
小春日は河原にまろき石ひとつ拾いにゆかむ憂れいは措きて

コンボよりの映像つらし泣くまいと必死で耐える幼なき瞳あり

(4月・コンボを追われし人々の群れ)

冬

福井 秀子

落葉の散り敷く歩道に野鳩一羽何をついばむ朝の静けさ
ゆるやかな坂道のぼる後よりほのかに匂ひくる木犀の花

忘れがちな夫のバースデーに濃きピンクのシクラメン届く師走の朝を
朝を降る雨は雲にぼたん雪にかはりて白く降りつもりゆく
枯れ池に白鷺一羽佇みて動かずにある雪降る中を

明月の夜

藤原香

明月の夜に召されし師の御みたま霊月輝る夜は我わがて手を合あわす
内孫と外孫家に入りまじりハンバーグ焼く匂におい籠こもらす
よろこびの庭に花咲く梅の木に目白数羽がむらがり飛び交う
帆かけ舟滑る琵琶湖を瑠璃るり戸ごし絵の如と見つホテルの廊に
長からぬ命と聞ける弟をなすすべもなくひと日暮れたり

花・逍遙

松村 せつ子

名も知らぬ山野草咲く山城路しろき小花は風にたゆたう
山里に咲いてる椿の一輪を手にとり暫し花と語らう
春の花彩どり淡く咲きあふれ人もやさしき井手の山里
さくら、桃、れんぎょう菜の花咲く里に小町の奥津城ぼつりと在りし
賑わいし桜並木の玉川を少し離ればのどかな田園

ひとひひとよ
一日一生

森田陽子

睡蓮の紅く仄かに広がりてこはモネの世界 風ははつ夏
百舌鳥鳴きぬ入院の日の迫り来て松手入れする夫の穩しき
紅ばらは勇氣促す花としも 夫病棟に送る朝咲く
一日一生の思いあふれて伏す人の病舎出ずれば夕茜せり
病いいとう夫とたたずむ昼の野に老桜白く空を覆えり

夕映え

棉源瑛

移り来て五年初めてけふ知りぬ高の原辺ゆあれが比叡と
夕月のやがて冴ゆべしたそがれに杏の花のほの白き刻
淡路島焼くや藻塩の大茨茅渟、瀬戸内に燃ゆる夕映え
ならまちのふるき軒端の色褪せし庚申猿に吹く風は秋
ひとけなき近鉄歴史教室にビデオ観ており外は粉雪



グループからの便り

歴史教養講座

坂田 定彦

歴史教養講座を受講して

網干先生にお会いしたのは何時頃だったか覚えがないが、多分高松塚が発見されたころだとすると三〇年位になる。勿論先生は講師の先生、私は只一介の聴講生に過ぎなかったが。

それ以来、折に触れ色々とお話しを伺った事がある。四季に色があり、東西南北にも色があると教わったことなどは懐かしい思い出だ。考古学の堅苦しい話を素人の私たちにも分かりやすく説いて下さる語り口は万葉集の犬養節にも匹敵する網干節と思っている。

文化協会に入れて戴いて例会に出てくると先生が資料を作られ、それを自ら配って戴いたのには驚きました。歩く会に参加したときの先生の健脚にはさらに吃驚しま

した。

この間、同窓会に出ると「また文化財とかやってんのかいな、言うたかてお寺参や、お墓参りやんか」と言われましたが、暇をもてあまして手ぶらであの世に逝くよりも、色んなことを一杯詰め込んで心豊かに人生を終わる方が楽しいと思いませんか。

古代史講座

清水 昇

朱雀一丁目から線路沿いに南に行くと平城山に入る。

荒れた山道が続くが、この道を渋谷道という。奈良時代の古山陰道は今の歌姫街道ではなく渋谷越であるとの学説もあり、古を偲びながら手軽に森林浴を楽しむことができる。歌姫を過ぎると佐紀盾列古墳群に着く。春には日葉酢媛命陵で鶯の囀りを耳にして一服するのも良い。さらに南に歩けば平城宮跡だ。これが私の好きな散歩道である。

遺跡巡りに最適の奈良に移り住んで二十年近くになるが、昨春やっと文化協会に入会した。第二の定年を迎え

暇ができたからである。早速、鬼頭先生の古代史講座に仲間入りさせていただいた。

テキストは『続日本紀』である。文武天皇から桓武天皇までの九十五年間を編年体で綴られた史書で、読み進んでようやく天平時代にさしかかった。華麗に開花した天平文化とは裏腹に陰謀渦巻く抗争の時代で佳境に入っているが、初めて『続紀』をひもとく私には口語訳とはいえかなり難しい。

難問・奇問・珍問がでるや自由闊達に意見が飛び交い、和氣藹々のうちに二時間があっというまに過ぎる。聖武天皇直筆といわれる東大寺の教額が話題になったとき、私は「あの看板……」と叫び、先生に大笑いされたことがある。この会を「狂心の会」とも称していると聞か、まだ一年生の私にもこの会員の資格はありそうだ。

家では女房に尻に敷かれ放しの私だが、ここでも女性会員の博識に圧倒される始末。「負けたらアカン」と予習を始めたが、脳細胞の衰えはひどく昨日読んだ書物の題名すら忘れるから情けない。しかしこれも「老人力」によるものと納得して、一茶の句「かたつぶりそろそろ登れ富士の山」の蝸牛を見習い、急がず慌てずのんびり

と先輩達に近付いていこう。

春うらら、今日も平城山を歩きながら思う。月一回とはいえ、よき仲間と楽しく古代史を学ぶ幸せを持つことができた。西日の映える御陵の水面（水面）を愛でつつ、古びたコピィではあるが「今日も元気でタバコが旨い」と口ずさみ紫煙をくゆらせている。

囲碁同好会

野田 清麿

中村正雄氏の死を悼む

今年二月に長い間、囲碁同好会並びに地酒を味わう会をお世話いただいた中村正雄さんがお亡くなりになりました。心より哀悼の意を表しご冥福をお祈り致します。中村さんについてはご存知の方も多いと思いますが、私なりに中村さんの思い出を綴り、故人を偲びたいと思います。

中村さんは平城ニュータウンの、開発後の間無しに右

京三丁目の現在の地を永住の地と定め家を建てられたそうです。それだけに生活の場としてのニュータウンの開発と人間関係に深い関心をお持ちになっていらっしやうった様で自治会活動とサークル活動に非常にご熱心で、拓本の会や囲碁同好会、地酒を味わう会の発足に深く係り、また長い間お世話をいただきました。私も中村さんとは朱雀五丁目に引越して一年位経った昭和五十六年の夏頃に、囲碁の例会に顔を出した時からですから、もうかれこれ十七八年になります。この間に地酒を味わう会の方にもお誘いいただき、囲碁とお酒を通じて中村さん並びに奥様には随分とお世話になりました。

中村さんは自分の信念を持った非常に意志の強い硬骨漢であり、家庭では家長として絶対的な権力をお持ちの様でしたから、その言動は豪快で面白く、私などからみたら羨ましい限りでした。しかし反面、事にあたっては綿密な計画と濃やかな気配りをされる方でした。

発足当初の囲碁同好会は平城院で例会を開いておられたようですが、平城西公民館がオープンすると同時に場所を移され現在に致っています。

私が最初に顔を出したのは平城西公民館に場所を移さ

れた後で、その当時は中村さんとすでお亡くなりになった石田さんとお二人で会の世話をされていましたが、準備などは中村さんが奥さん連れをこられ、和室にゴザを敷いて奥さんがお茶やお菓子などを出しておられました。その当時は毎週十二〜三名位の人が集まっていたと思います。私が初めて顔を出してから一年位経って奈良市の公民館対抗（現在は親睦）囲碁大会が始まり、私もそちらの方の実行委員として会のお世話をすることになりました。

その当時から中村さんは年に一〜二回、主なメンバーを自宅に呼んで碁会を行い、あと奥様の手づくりの料理を御馳走になり酒を飲みながら雑談と囲碁を楽しむ機会を作ってもらっていました。中村さん宅での碁会は近年だんだん多くなり、時には五〜六名で又は中村さんと二人で碁を打ち……。私はその都度、奥様の手料理に舌鼓を打ちながら深夜遅くまで碁を楽しませていただきました。また地酒の会では毎年五月に中村さん宅でさつきの観賞会を行っていただき酒を飲みながら遅くまで歓談させていただきました。中村さんはその度に入念な準備をされ、特にさつきの見頃を合わせるには苦勞なさっ

ていた様です。

奥様の手料理は品数も多くプロ顔負けの出来栄でしたが、しかし最初の頃はお料理もご主人が色々指図なさっていらっしやうとお聞きしていましたが近年は料理の方は奥様に任せっきりではなかったかと思えます。

中村さんはここ二〜三年は、たまに体調をくずしたりしていらっしやうな様でしたが、たいした事もなく、昨年三月末にいよいよ第二の職場も退職すると言うことで半年位前から色々退職後の計画を立てられていた様でした。ところが一昨年の年末に突然体調を崩された様で一月に大阪の警察病院に入院されガンの摘出手術をされました。中村さんはもともと心臓がお悪く弁膜の欠陥を拡張する手術を受けていらっしやうと言うことでしたが、最近その調子が悪く退職したらすぐ心臓の手術をする予定だった様でしたから、ガンの手術は思いがけず、心臓にとっても大変な負担だった様で、手術中は一旦心臓が停止したりして大変危かったそうです。私も大変気になっていたのでご家族にご様子だけでも詳しくお聞きしようとして手術後二日目の午後病院に顔を出したら、ちょうどご家族の面談の時間があり、奥様の計いで特別にご

一緒させていただきました。その時、中村さんは吸入器をつけていらっしやって呼吸も大変だったし、何よりも術後の痛みも一番激しい時だったはずですが、痛いという声は一つも聞かれず、ご家族に色々指示なさっていましたが、私にまでもお気づかいいただき、ご家族に帰りにご一緒して、どこそこで食事をしていくよう指示されていたのには大変恐縮致しました。又、その精神力の強さには驚き入りました。そして手術後一カ月位で退院され、しばらくの自宅療養の後、会社の方も三月末に定年退職されました。

その後、体調の方も比較的順調で、私も度々ご自宅にお世話になり囲碁を打ち、夕方には奥様の手料理に舌鼓を打ちながら夜遅くまで対局させていただきました。

その後、人工弁になり、大動脈も手術する予定で、それを心待ちにしていらっしやいましたが、延び延びになり、ようやく八月末頃だったと思いますが手術の為入院されました。

しかし、検査の結果、ガンが再発しているとの事で、このままではどちらの手術も出来ないということで一ヶ月位で退院されました。そして病院も手術が出来ないなら

近い方がいいと高の原中央病院に変えられたそうです。

中村さんはご自身の病気についても、医者の説明などこと細かくメモしておられ、よく状況を把握していらっしやいました。そしてその頃はご自身の余命があと半年位だと察知されていた様でした。

それからは自分が亡くなった後のことを色々ご心配になっていた様で、家の整理をしたり、墓地の購入などもされたと聞いておりました。

そしてしばらくは小康状態を保っていらっしやいましたが、十二月になって急拠容体が悪化された様で、高の原中央病院に入院されました。高の原中央病院に入院されてからは、私もお顔だけでもと何度か足を運びました。相変わらずの勉強熱心と几帳面さで手許からいつも本や手帳を離さず、ご家族にも色々指示していらっしやる様でした。そして最後まで諦める事なく、又、気力もしっかりしていらっしやり、失業中の私のことについてもご心配いただき、また色々とお心づかいをいただきました。

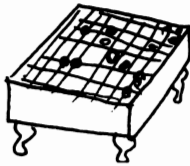
そして、中村さんの真骨頂はご自身の葬儀に示されたのではないかと思います。葬儀の段どりについても、ご

家族にこと細かく指示されていた様で、最後までご自身の意志を明確にし、また、それを実行されたご家族も立派だったと思います。義理人情には厚いが、徹底した合理主義、戒名までご自身で用意されていたのには驚きました。

長いようで短いお付き合い、と言ってもお世話になりました。改めまして福をお祈り致します。

◎囲碁同好会は毎週日曜日(但し第四日曜日を除く)、午後一時頃より五時まで平城西公民館で対局を楽しんでおります。きつとすばらしい出会いがあると思います。

お気軽にご参加下さい。



「……歩く会」

広田 省吾

何時頃から歩く人達の多くなったこと、それも熟年といわれる人達が多くなりました。車社会と言われる世の中にあって、昔の人と同じように自分の足を頼りに仲良しの二人とか三人で、又、私達と同じように十人、二十人のグループで、道端に咲く花を愛で、鳥の鳴き声に耳を傾け、……の道と呼ばれる土代から伝わる道とかひっそり静まりかえった、神社、寺院を訪れています。

「……歩く会」平成十年度は次のように歩きました。

四月十九日(日)晴 上醍醐 参加者九名

五月十五日(金)晴 上醍醐 参加者十七名

上の醍醐寺は四国三十三ヶ所観音霊場の中で最も難所と言われる所です。不規則な石段と地道を一步、一步、踏み締め、踏み締め、登りました。途中、太閤さんの花見の宴を催されたという場所を通して上醍醐寺へ。一番上の開山堂の前で喰べたお弁当のおいしかったこと。

それにしても、昔の偉いお坊様は、修行とは云え、何



でこんな辺鄙な山の上にお堂を建てたんやろ。建築した大工さんや、協力した庶民もえらいな。極楽や来世を信じていたのでしょうか。

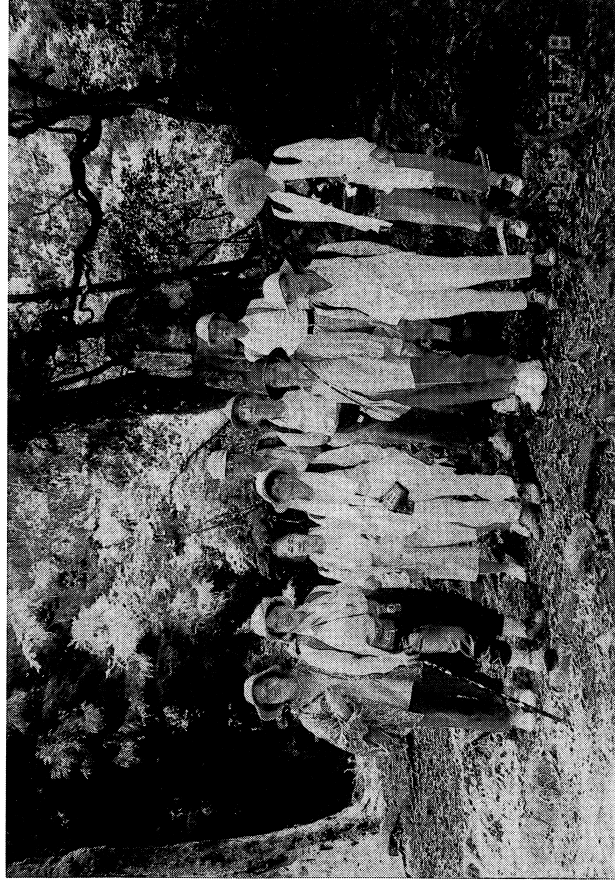
「一人なら、とても登れないけれど皆さんと一緒に登れることができた」と喜んでいただきました。

六月二十一日(雨) 中止

七月十七日(金) 晴 滝坂の道・春日奥山 鶯の滝から若草山頂上へ 参加者十一名

九月二十日(日) 晴 滝坂の道・二回目 参加者十名
その昔、剣豪 柳生十兵衛が柳生の里へ通った時、踏みしめたであろう今は崩れかけた石畳の道を、夕日観音 朝日観音様が慈愛に満ちた微笑みで私達の歩く姿を見守っておられます。世界遺産に指定された春日奥山原始林の中、鶯の滝から若草山頂上へ。のんびりと鹿を迎えてくれます。眼下に大和盆地がみわたせました。「やっぱり奈良はええとこやわー」

滝坂の道を高畑より登るとき山蛭がいるというので、サロンパスのスプレーを足元に吹きつけて(公園管理事



務所に山蛭対策を問い合わせたら、何とサロンパスの匂いが嫌うらしいと聞いたので準備完了。下見の時、知ったのですが、山蛭は木の上から落ちて吸い付くもの聞いていたのですが、下からも飛びついてくるとは、初めて知りました。

十月十八日(日) 雨 中止

十一月二十日(金) 晴 石切(辻子谷)から生駒頂上(昼食)。宝山寺へ 参加者十一名

平成十一年三月十四日(日) 晴 石切から生駒頂上へ二回目 参加者四名

石切りさん(石切鍛筋神社)に奥の院があるのを御存じですか? 近鉄石切駅から東へ登ること約十分位のところに御座す。上社と申し上げます。さらに東へ登ると小一時間で興法寺に着きます。その間に漢方薬の生薬独特の匂う製薬工場の横を通りました。鷲尾山 興法寺の門前に山からの水が、可愛らしい滝となって落ちています。これぞまさしく霊水と急坂を登って来たこともあり思わず一口「うまい」それこそもう一杯と飲む。

五米程離れたところに立て札あり「水質検査の結果、この水は飲料に適しておりません」エエーそんならもつと近くにおいてくれたら良いのに、ぼやいても後の祭り。さいわい、お腹は何ごともありませんでした。

年が変わって三月、石切の二回目、十二、一、二月は御休みで身体がなまっていたのか、登りのえらいこと、足が前へ進まずゼイゼイ。やっぱり身体は普段から、鍛えておくことが肝心です。

光陰矢のごとし、又一年あつと云う間です。道端の草木や鳥の鳴き声に季節の移り変わりを肌を感じながら歩いております。

さあ二十世紀末から新世紀へ一步、一步、自分の足で楽しく元気に歩きたいものです。

いつも御願ひするのですが、楽しく歩ける所があればお知らせ下さい。そして皆様の御参加を御待ちしております。

何時も下見に、御参加下さった方々、本当に有り難う御座居ました。



中国語同好会

松村 如洋

「中国語を覚えませんか」

平城ニュータウン文化協会の中国語講座(久富木先生)に引き続き中国語同好会が発足し、二年になります。今年も、四月から毎週木曜日に中国語会話の勉強を始めたいです。当初より参加されている会員は六名、途中中断された方もありますが、四月からまた新会員が一名増えました。皆さん非常に熱心で、中国語会話も驚くほど上達されています。和気あいあいとした雰囲気の中で中国語会話を楽しんでいます。これも網干善教会長、山内梅乃事務局長、役員、会員の方々の温かい励ましとご指導のお陰と深く感謝致しております。

先日、ある方から「他ののは講座となっているのに、中国語はどうして同好会なのか」との質問を受けました。私達の中国語同好会は「教える教えられる」の関係ではなく、みんなで一緒に中国語会話を覚えようという会なのです。主として、NHKテレビ「中国語会話」のビデ

オを使って会話の練習をしています。そのビデオで正確な中国語会話と発音を習得すると同時に、急速に発展して行く最新の中国とその人々の生活習慣を知り、社会の変化に伴って生まれる新しい言葉を学んでいます。

「中国語は漢字だから見ればだいたい意味は解かるし、筆談をすれば通じる」とよく言われます。確かに見れば解かる漢字も有ります。では、これはどうでしょうか。

漢字は同じでも、意味はまったく違います。①湯、②美容室、③老婆、④大家、⑤丈夫、⑥愛人、⑦汽車、⑧走、⑨去、⑩怪我。中国語では①スープ、②肌の手入れをしてくれる所(エステティックサロン)、③女房、④みんな、⑤夫、⑥妻、⑦自動車、⑧歩く、⑨行く、⑩私を責める、という意味になります。また、日本人にはどうしても解からない単語も有ります。たとえば、「零食」(おやつ)、「低烧」(微熱)、「番茄」(トマト)、「开夜车」(徹夜する)、「花眼」(老眼)です。え、こんな漢字があったかなくて。そうです、中国では簡体字を使っています。「开夜车」は「開夜車」を簡略化したものです。さらに、中国では改革開放政策がとられたこの二十一年間で、外来語が非常に増えました。「珈琲」(コーヒー)、

「漢堡包」(ハンバーガー)、「电视」(テレビ)、「飞机」(飛行機)、「啤酒」(ビール)、「电脑」(パソコン)、「因特网」(インターネット)、「卡拉OK」(カラオケ)などです。

他にも、「小皇帝」という言葉があります。増大する人口を抑制するために、「独生子女」(一人っ子)政策がとられ子供の人数が減ったために、どの家庭でも子供は大切にされ、甘やかされて、わがままになり、まるで皇帝のように振る舞う子供が増えました。そのような子供を「小皇帝」と言います。

奈良は約一千四百年前から中国との交流がありました。西暦五三八年に仏教が日本に伝わり、仏教と共に様々な文化が中国から入ってきたと言われています。今も、私達の周囲には漢方薬をはじめ、中国野菜や中国製衣料品などが溢れています。また、仕事や観光などで中国へ行かれる方も多数おられます。私達の同好会会員も、ご主人やご子息が仕事で中国に行っておられたり、中国に友人がおられたり、趣味や観光でよく中国に行かれるなど、中国と何らかの接点を持っておられます。二十一世紀には、人口十三億とも言われている中国は私達にとって更

に大きい存在となり、交流もますます盛んに行われるでしょう。中国をよく理解し、中国の人達とより親密な関係を築きあげることが大切ではないでしょうか。中国語を少しでも話せれば、互いに親近感も増し、旅行の楽しさも倍增することでしょう。今から、一緒に中国語を覚えませんか。

木目込、押絵同好会

杉田 璣子

永年の勤からも、開放され、これからは地域の方達との交流を持ち乍ら、楽しいことを探して暮らすようにしようと思っていた矢先に出合ったのが木目込人形、押絵同好会でした。お誘い下さった陣内さんには、感謝しています。昨年文化祭の展示会も終った十一月十八日が入会で、運よくレクリエーションに参加させて頂きました。大自然の名勝みたらしい溪谷散歩日帰りコースでした。お仲間は何んの躊躇ためらいもなく入れて頂きました。これも、谷口先生始め皆様の暖かいお人柄の賜物と嬉しく思った事でした。

初雪の散らつく日で、すっかり冷えた身体を洞川温泉で温まった後は、秘境三昧に舌鼓を打ち乍ら皆様との初顔合せが昨日のように蘇って参ります。

第一の作品はお手玉で、金襴の艶やかな色とりどりの布を手にするだけで楽しくなりました。

今は姫人形に取りかゝっていますが、先生に一つ一つ教えを請い乍ら、「先生こどうするのですか、あゝ、むっかしい」と嬉しい悲鳴をあげ乍ら、少しづつ人形に衣を着せる姿に引かれ、月二回の教室が待ち遠しく感じています。

自由教材なので、押絵をしている人、お人形にしても同じ作品がなく、他の人の作品を見ながら次はあれもこれもと欲が先行します。

〇〇さん、もう、あのお人形が出来上がったのですか、「あの子、可愛くて毎日眺めているのよ」との返事、愛着のある正に生かされているお人形の姿が目には浮かびました。

こうして楽しい教室を開かれるのも谷口先生の存在があったの事です。先生は大阪吹田から来て下さっているのですから、皆さんの作品の準備で外国旅行にでも出か

けられる程の荷物をかかえて、誰よりも早く教室入りしてくれているのです。

谷口先生、末永く御見捨なく御指導よろしくお願ひ申し上げます。

木目込、押絵同好会に乾杯。

第一、第三水曜日。十時〜十四時まで、熱心に作品に取り組んでいます。色々と会話もはずみ、お互いを理解しながら人生勉強の機会ともなっています。

どうぞ、興味のある方は、教室を覗いて下さい。お待ちしています。

読書会

読書会一同

文集 「読書尚友」より 抜粋

◎はじめに

文化協会が発足して十五年。読書会も同時に誕生しました。主宰は故大橋一二先生です。

……略……

こんな楽しい読書会を、気長に育てて下さいました

大橋先生は、平成九年十月天国へ旅立たれました。先生は終始一貫イギリスの哲学者、フランシス・ベーコンの教えを説き、ご自分も実践してこられました。

あせらず きばらず 楽しく読んで 楽しく語り合う
これからもこの教えをモットーとして読書会は続いていくことと思います。

最後にこの文集を先生の御魂に捧げご冥福をお祈り致します。
読書会一同

◎例会の記録

一回目〜一六三回目まで

◎各人の読書感想文 一部分ずつ



○『深い河』（遠藤周作 著）

岡田 越子

物語は印度仏跡旅行に行った人々のことが詳しく一人一人生い立ちとか旅行の目的などが書かれている。それは十三章に分かれている。

先ず第一章は磯部の場合で妻が癌の手おくれを宣言された時の思い出しから始まる。妻に嘘をつくことの苦しさ寂しさが書かれている。……略……

○『本覚坊遺文』（井上 靖 著） 片岡 圭子

……略 私は利休が求めた佗び茶が六十才頃から切腹した七十才までの間に完成したのであると思う。そして秀吉が武士として、征服というものに生涯をかけたように、利休は自分の茶に命をかけて秀吉に対抗したのではないだろうか、と思うのである。……略……

○『聖徳太子の正体』（小林恵子 著） 木庭 和子

……略 謎のヴェールに掩われている太子像は又時代に依っても変化する評価を踏まえても尚、この著書るときあかす“正体”は???である。戦時中だったか「ジンギスカンは義経なり」という診説が出た。この本も多分それと同工異曲のものだろうと予感しながらも、中国史の中でも読み辛いと敬遠してた五胡十六国、騎馬民族の興亡常なき時代をとにもかくにも読み通し、聖徳太子についても考えることができたのはこの本のおかげである。

○『やぶ医者と言いつ』（森田 功 著） 南村 照栄

……略 今はほとんどの人が病院で、体中管を付けられて、濃厚な医療をうけて死ぬ。……略……息が絶えてから、すべての管やコードが外され、ようやく元の

表情を取り戻した夫の、死顔をなでながら、ハルさんは同じ死ぬのならばなせこまで、苦しめなければならなかったのかと、悔やみぬいたらしい。……………略……

○『風の王国』(五木寛之 著) 西島 芳子

……………略『山窩』の呼称は、その後、明治、大正、昭和を通じて国民の三大義務を拒否する無籍、放浪の人々の撲滅に、絶好の手段として利用され、警察側の資料提供による『犯罪実語集』『山窩奇談』のたぐいの本がつぎつぎと出版され、また当局とタイアップして雑誌にその種の猟奇小説が氾濫して、彼等の犯罪集団、異常生活者のイメージが強調されたのである。……………略……

○『海嶺』(三浦綾子 著)

林 美智子

……………略 これは宗教の違いによる悲劇である。現実
に今の世の中においても、宗教上の争いが絶えないで、
人々がにくしみ合っているのを報道で目や耳にする。神
に祈る行為は美しいものであるのに、信ずる神が違うこ
とで、なぜ人々は相手を理解したりすることができない
のだろうか。……………略……

○『銀の匙』(中 勘介 著) 山内 梅乃

……………略 物語を織りなしてゆくのは、こよなく優し
い伯母さんの存在である。伯母さんは弱虫の主人公によ
さそうな遊び仲間を一生懸命探し「ええ、お子だに遊ん
だってちょうだいも」と言い、自分も子供の輪の中に加
わって、一緒になって歌ったりもした。……………略……

○『孤愁の岸』(杉本苑子 著) 吉野南美子

……………略 平田靱負が権力への怒りの炎を燃やし続け
たその底に流れていたもの、一滴一滴の油となって炎を
持続させたもの、家老として常に人の上に立ってきた彼
の「下の者、弱い立場の者への共感」とでも言おうか。
作者は一言も優しい性格の平田はなどと言いはしない。
けれど行間から匂いたつように慈愛に満ちて彼はそこに
たつ。……………略……

◎読書会記録ノートより……………略……

平成十年度読書会の活動を記させていただきました。
た。

読書会文集はメンバー各人が持っています。

どうぞ手にとって全文お読みいただけたら幸いです。

短歌を楽しむ会

森田 陽子

今、平城ニュータウンは、すっぱり新緑に包まれていきます。点在する赤白ピンクのつつじ、風の香り、樹々の匂い。新しい街のたたずまい。

「きれいな街ですね。」

先日訪ねて来た中国人留学生の姜さんが感激して言いました。

この私達の街、平城ニュータウンの文化活動は、日を追って、ますます盛んですが、私達の属する「短歌を楽しむ会」も、この五月で九十七回目を迎えます。

網干先生を戴き、十五名位の会員が毎回熱心な、しかも楽しい会を第三火曜日一時半より北部出張所に於いて実施しています。

日常生活の感動やそれぞれの思いを三十一文字に託して持ち寄る、素敵な先輩、仲間達の白熱した選評、互評の場、又それは楽しいティータイムの場でもあります。

私とこの大好きな短歌とのかかわりは、思えば幼時、亡母の与えてくれた啄木カルタより始まります。

しんしんと雪の降る夜、中国大連のベチカのそばで、皆でとったカルタ。

やわらかに 柳青める北上の 岸辺目に見ゆ

泣けとごとくに 啄木

深い意味はわからないながら啄木の短歌の数々は、しっかりと脳裏に焼付けられたものでした。

テレビの無い時代、子供達はむさぼるように本にかじりついたものでした。私もご多分にもれず家にある明治大正文学全集や、源氏物語を読む小学生でもありました。

終戦後、昭和二十二年大連を引揚げ、母の母校女高師のある奈良に落付きました。

編入した中学の担任の先生が宿題によく短歌や俳句を出されました。三笠山を詠んだ始めての短歌のことを思い出します。お城跡の近くの高校では古典新抄を教えて頂き万葉集や古今和歌集の素晴らしさにひたりました。

大学では当時、博物館の近くにテニスコートがあり、放課後の楽しみに白球にいどみました。きびしいレッスンや講義の合間に、友人達と奈良公園を歩くのが好きで、ノートに走り書きのつたない短歌を残したことも思い出します。



その後大阪の小学校に就職し児童と共に過した日々の
哀歓や感動をメモに残しました。平成四年、卒業式のピ
アノを弾いて児童を送り私も退職しました。

その間、昭和四十五年に母と共に母の友人の笹倉先生
の主宰される「海流短歌会」に入れて頂きました。

夫の両親や、私の両親を見送った哀しみを短歌に記し
ました。母や妹の追悼歌集も先生のご好意でまとめて頂
きました。

先日四月十六日NHKのニュースに国立大学^{ハルビン}哈爾濱学
院の最後の同窓会の様子が放映されました。

亡父の母校です。桜咲く東京の八王子に中国北東部に
あった学校の記念碑が建てられたとか、残られた同窓生
が集う最後の式典でした。きびしい終戦時の苦勞と共に
よみがえるアカシアの大連、むせるような記憶が一度に
思い出されました。

現在この平城ニュータウンの、伸びやかなたたずまい
の中に、生かされるこの身を思う時限り無き感動を覚え
ます。大いなる宇宙に支えられ神仏のご加護を頂き、先
祖の恩恵を受け家族の愛情に支えられ、つつがなく生か
されている仕合わせ、私はこれからも短歌を通じこんな

日々の思いを書き続けてゆきたいと思えます。生きる証しとしての短歌を。素晴らしい先輩や素敵な仲間達に支えられて。

同好の方、ぜひお越し下さい。お待ち致します。

地酒を味わう会

松本 敏夫

「イチャリバ チョーデー」

一昨年の夏から、ほぼ月イチで通いを続けている。「なぜ？」と聞かれると、「ウーン……」といつも言葉にならないままで。五月のことである。北谷（ちゃんん）からタクシーに乗った。「何度目ですか沖繩は？」と尋ねられて「16回目かな」と答えると、あきれたように「へえー、じゃあよく存じだ」と妙な東京弁で切り返してきた。国際通りに近い所で降ろしてもらおう。

石垣、宮古、本島周辺の離島と行先は違っても毎回、一晩は那覇に泊まる。そして必ず行く所がある。沖繩へ来てイの一番に入った店なのだが、「あんたは運がいい

よ。沖繩で一番いい店だよ」今は大変親しくしてもらっているF氏（元教員で現在悠々自適）の最初の言葉だ。自宅へも案内され、教え子のやっているスナックへも連れていってもらった。会うたびに違う“次の店”を紹介してもらっている。

“ニンブジャー”のU氏。彼は医学から歴史、植物学ととにかく博覧強記。ニンブジャーとは僕がつけたあだ名だが彼いわく、琉球国以来“念仏者”のことをそう呼ぶらしい。謎を秘めたほほ笑みを絶やさない人である。

「確かウチにあったはず。今度いつ来るの？じゃあ、その時、持ってきましたよね」と言って、僕がその蔵元のある日本最南端・波照間島へ行けども全然手に入らなかった幻の泡盛「泡波」の一升瓶を事もなげに目の前に差し出されたN氏には唯々感謝感激。（この酒は今年七月の例会に皆で頂く予定）

「イチャリバ チョーデー」とは“出会った人は皆兄弟”“一期一会”そんなニュアンスでしょうか。沖繩は人も土も温かい暖かい、かけがえのない故郷（くに）であります。

我々地酒を味わう会も“イチャリバ チョーデー”の

雰囲気毎月一回の例会（第2土曜）を楽しく愉快に過ごさせてもらっています。また最近各会員同士で声をかけ合って、分散活動というか数人のグループで葛城山にハイキングとか、雪まつり見学を兼ねて札幌で飲み歩いたり、ジャズライブを聴きに出掛けたりと「会」にとらわれず、まさに文化を味わう会といった趣。何をするにも背景にちょっと缶ビールとか、一升瓶が写っているところはさすが、地酒を味わう会というところでしょうか。

例会の模様をいくつか報告してお開きにします。

年末は当会会員でもある福田政則氏がやっている奈良・般若寺の「御逢詞果」（オアシス）で恒例の忘年会。阪神タイガース・野村監督で沸く丹後半島直送の新鮮な魚介類のお造りやブリしゃぶなどを肴に純米吟醸「羽州北鹿」純米大吟醸「五億年」などを飲んだ。18人（女性5人）出席。

99年年頭の新年会は三条通り近くの「梁山泊」で。景気をはじめ何かと暗い話題の多い社会のムードにのまねよう、今年も明るく元気で飲みましようの掛け声で乾杯。造りやなべものを肴に山廃純米「福の宮」純米吟醸「東一」などで盛り上がった。16人（女性4人）出席。

解散後、二次会カラオケはT氏の「網走番外地」で初笑い、涙が出るほどの熱唱だった。

二月には寒造り酒蔵見学会。葛城山のふもと新庄町の「梅乃宿酒造」を訪ねた。しぼり立ての酒を飲む姿を想像するだけでヨダレが出てくる。その気持ちをあおるかのように粉雪も散らつく。舞台装置は申し分ない。そんな気分をグッと引き締められた。何と案内役の蔵人の一人が外国人、イギリスから来たフィリップ・ハーパーさんという青年。見学後、純米吟醸や純米酒など4種類ほどの酒を買って帰り、地元・右京の「味杉」で、うどんすきを食べながら飲んだ。16人（女性7人）出席。

四月は花見を予定していたが、去る二月十七日に逝去された前会長・中村正雄氏をしのぶ会として奥様にもお出席頂き、右京公園集会所で十日、遺影と共に「妙の華」「太平海」などを飲んだ。文化協会事務局長の山内梅乃氏にはお忙しい中、駆けつけて頂き改めて御礼申し上げます。20人（女性7人）出席。

この六月には一泊研修旅行としてM社宝塚保養所で腰を落ち着けて大いに飲み、語り、より一層親睦を深めていきたいと思っています。18人（女性7人）出席予定。

なお、当日はゲストとして宝塚近くの木之元窯の陶芸家・豊田嘉隆氏を迎え、焼き物談議や米国、中国などでの武者修行の話などを肴にすぎ焼き、しゃぶしゃぶなどで吟醸酒の数々を堪能する予定。

牡丹散る不識とばかり空の青 勢鯉

▽連絡先〓当会事務局長・鈴木 ☎ 71-1690 まで。

詩吟の会

花田 清美

少子高齢社会 また核家族化の時代に向かい心の振れ合いの無さ、健康に対する不安、経済問題に対する自信の喪失等日本全体が元気を失っております。

しかし、こうゆう時代だからこそ平和、教育、文化に力強く立ち向かっていくことが大切であろうと思えます。

私は一昨年四月第二の職場も無事終えました。停年後は何か趣味を持って楽しみながら学び、仲間を作ることが必要だと考えていましたが、幸い家内が五年程前から詩吟を習っていましたので何ら抵抗なく詩吟を選び習い



高の原吟詩会 新年会 於：ルーラック

始めました。

私も最近やっと詩吟が判ってきた様な気がしてきました。

白帝城

李白

朝に辞す白帝 彩雲の間

千里の江陵 一日にして還る

兩岸の猿声 啼いて住ま不到るに

輕舟已に過ぐ 萬重の山

何んと雄大で心が和む詩でありましょうか。

日本人は古い時代中国や朝鮮から来て帰化した渡来人から、漢字を学び文化の発達とともに、建築、彫刻、絵画、律令制度を学び（白鳳文化）、天平文化時代には漢詩、和歌を自らのものにし絵画・工芸・修史事業・文学等の国風文化を打ち立てました。

この意味から漢詩・和歌を朗詠することは日本人の心を歌うことであり、ほんとに日本人としての琴線にふれるものがあります。

るものがあります。

奈良の地は国のまほろばであります。奈良の地で私達と一緒に詩吟や万葉を朗詠して見ませんか。月に三回、満九十一歳でなお矍鑠とされている吉本堤瑞先生や西尾堤久先生の御指導のもと、北部出張所の会議室で約三十名が大きな声を振り上げております。どうぞお気軽にのぞきに来て下さい。

俳句入門講座（ならやま句会） 牧野 和代

坂本よしゑさんを偲んで

「なら山句会の母」ともお慕い申しておりました坂本よしゑさんが、昨年七月一日御逝去されました。句会としては、本当におしい方を失ない悲しい事でございます。よしゑさんの俳歴につきましては、層富（No.14、P.74）に「俳句と共に四十五年」の寄稿がありますので、お読みいただければと思います。

四十五年という長い間「ホトトギス」「玉藻」「青」等

に投句され、日本伝統俳句協会の会員として御活躍されました。

俳句てふ支えのありて去年今年

に見られるように晩年は俳句三昧の生き方をされ、ひたすら伝統俳句に邁進して来られたことに、敬服のほかございません。句会には、襟元すっきりと和服をお召しになって出席される事が多く、その句作に於ては、若く瑞々しい感性に溢れた御句である事に驚かされておりました。句作だけでなしに、謙虚で、感謝感謝のお気持ちが見られ、一寸した事に対しても、墨筆で丁寧なお手紙を戴き、本当に行届いたお人柄でございました。

残念なのは昨年七月末に上梓致しました合同句集「平城山三」を見ていただけなかった事でございます。この句集のよしゑさんの末尾の句は

恙なく花花花の旅終えて

でございました。春駒の弔辞と俳友の弔句を添へて、黄泉の国への旅立をお見送り致しました。

御冥福をお祈り致します。

弔句

詠み給へ永久に千草の満つ国に

牧野 春駒

永久に吾に秋水湛へくれし人

棺出でて解かぬ合掌炎天下

七夕の星何ゆゑに見失ふ

牧野 和代

夏帯をきりりと句座の人となり

出棺の合図に日傘畳みけり

七夕の願ひの糸も間に合はず

伊藤 柳紅

風鈴の音色のこして逝かれけり

夏菊の白に包まれ友黄泉に

岡 良子

亡き人の物腰やさし月見草

言ふなれば沙羅の花かやいと幽か

木村 長子

白南風や殊にしみじみ海女の句の

沙羅ちるや平城山の灯の一つ消え

込山 山歩

初蛩黄泉路しづかに照らしけり

見ぬ国の吟行いかが夕端居

辻田しまよ

清らかに一蝶高く梅雨浄土

お元気なあのお笑顔現れ夏霞

南村 照栄

かなしみは潮騒のごと沙羅の花

天の川孫に抱かれて逝かれしと

西山佐代子

百合の花ほえみ遺る句座ありし

羅にやさしき言の葉の生れ

藤沢 陽子

彼の岸は更に涼しき風吹くや

ひと目会ひ七夕星となり給ふ

堀池 敏子

帯締めて母の匂ひを天の川

四十五年の句歴遠しや夜半の秋

村上 俊子

咲き初めし白桔梗もて供花とせむ

手を合す遺影は優し白菊に

和田美代子

いま一度お声聞きたしホトトギス

亡き君のみ魂無明に蛍飛ぶ

森田 陽子

米寿終へ句友逝きたる梅雨晴間

大浦小枝子



藤澤 陽子

俳句——この摩訶不思議なるもの、たった十七文字の世界に限りはないのでしょうか。勿論のこと自然の移ろいは無限でしょうけれど、言葉や感情には限りがないのでしょうか、又表現には限りがないのでしょうか、と



は言えいつの間にか毎月句を作っています。

苦しんで句数を増やそうと頑張りはいたしますが、多分に授かっているという奴が多いのです。ふいに天から授かるという不思議さをつくづく感じながら句作(苦作)を続けています。

十数年間この「ならやま句会」を引っ張ってきて下さいました春駒先生、常時強痛を持たれる身ながら、又再々御入院なされる身体でありながら、熱心に御指導下さいまして本当に有り難うございます。重厚で荘厳とも言える句を作られます。

句友の皆さんは各々緻密な写生の句、郷愁的なもの、諧謔性、稚拙味、叙情的、大胆なるもの、平明さ、穏やかさ、日常性、骨力のある句等々、いろいろな句を持ち寄っての句会は本当に楽しいものです。皆さん各々持ち味があって、自分にはない要素の句を沢山読ませていただく楽しみ、採ってもらった時の快感、全く箸にも棒にもかからなかった時の落胆(採ってもらえなかったからといって命取りになるわけじゃない……)、スリルに富んだ時間はまたたく間に過ぎていってしまいます。句会は全く不思議な魅力を持っています。

平成十一年三月には快晴の中、「奈良町」へ吟行いたしました。元興寺、頭塔、猿澤池、資料館など——あの町並みは普段よく見知っていると思っていた処でも、いざ句を作ろうという目で見直してみると、又新しい視点が生まれてきます。同じもの、同じ処を見ての、皆さんの句には興味津々です。大きい句柄、細かい観察、見落していた悔しさ、表現出来得なかったもどかしさ、自分の句は、もう「どうでもいいや」という思いになります。

又五年に一度「合同句集」を出版いたしております。良い記念になり、勉強になり、刺激にもなります。

平成十年七月、二百頁余の合同句集「平城山三」が出来上りました。校正をお手伝いさせていただき、これも又勉強になりました。読んでみようかと思われる方は幹事さんの方へ御一報下さい。まだ何冊か残っていると思います。どうでしょうか、皆さん御一緒に一句ひねりませんか。お待ち申しております。

句集についての問合せ先

* 込山 (七一―五〇五八)
* 西山 (七一―四九五〇)

パッチワーク

岡田 越子

パッチワークの仲間に入れてもらってから何年になるだろう。何時も楽しく和気藹々の中で色々と人の作品を見て「いいね」と感心したり私も頑張らなくちゃと思ったりする。

先生のアイデアはすばらしい！ 何を持って行って相談しても、いやがらず考へて下さり、いい作品になって行く。

時々小物を教へて頂く、小動物・人形・アクセサリーなど可愛らしくて時間を忘れてつい、いくつでも作ってしまふ。人によげたり、孫を喜ばすのも嬉しい事です。年一回の文化祭に向けて頑張った作品を並べるのも意欲が出ます。又お祭りの折にも、ひまわり館に飾ったりします。

私も本職の洋裁・編物も忘れて最近パッチワークに没頭しています。

夜テレビを見ながら一針つづきしていると時間が短く感じます、でも年だからと十一時が来ると入浴して休み

ます。

作品もずい分たまりました。

小物は一ぱい、四季折々の正月用のお芽出度い物・雛まつり・五月の節句用・春夏秋冬用のタペストリー、又大きな二米四方位のもの、ベッドカバー・応接セットカバー・テーブルセンター等々です。

誰かがお菓子を持って来て休憩するのも楽しい一時です。

まだまだ続けたいと思っています。

希望の方は一度見学においで下さいませ。

万葉講座

廣田 好實

「万葉集を復習^さい直してみたい。」そんな声が平成ニュータウン文化協会仲間^の口にあがったのは昭和末期。格好の講師が実在したからでもあろう。

協会発足以来いままなお綱干会長^の二の腕となつて副会長^の要職をこなす松岡禮一さんがその人。いま八十四歳の年男。ツルのように細身ながらジョークを忘れず、機

敏に動き、パソコンも自在に操る。学生時代は漢文と文法を修め、かたわら万葉学者・武田祐吉に師事して日本最古の歌集を自分のものとし、長年高校の教壇で教える側に立たれていた。

文化協会は元号が平成に改まった元年の四月『万葉の会』のスタートを正式に認めた。つまり今年四月は発足満十周年。

グループはサクラ咲くその月の第一月曜日（毎月第一月曜午後一時半〜同三時半が開講日時）、ペンと学習資料を箸とグラスに持ち換え、会場を平城宮跡そばのホテル大広間に移して祝宴を催した。

総勢四十五人。男女同権というのに、うち男は五人。これにも訳はあろう。日中事変から第二次大戦にかけて日本人が毎日のようにうたわされた歌がある。

海行かば水漬く屍 山行かば草むす屍

大君の辺にこそ死なめ 顧みはせじ

広辞苑には「信時潔が一九三七年（昭和十二年）に作曲した日本歌曲。歌詩は万葉集卷一八の大伴家持の長歌中の句」とある。故国に無言の帰還をした英霊に捧げる悲しみは別として、同じ戦場で良き友を失った戦友たち

の感慨はいかばかりか。「明日はわが身」かも知れないのだから。

雄々しい防人さきもりの歌は、中学の低学年からしたたかにたたき込まれた。天平勝宝六年（七五四）、兵部省次官として防人を司ることになった大伴家持によって集められた歌である。防人の任期は三年。主として東国諸国の二十歳以上六十歳以下の男の中から徴兵され、ふるさとから難波までは徒歩で、難波から筑紫までは船で運ばれて日本防衛の任に当たった。

今日よりは 顧みなくて

大君の 醜の御楯と 出で立つ 吾は

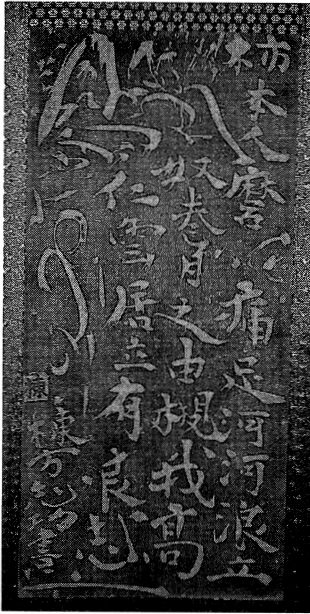
この歌を丸暗記し、以来「防人歌は武人の心意気の歌集なのだ」と信じ切って過ごしてきた。しかし、松岡講師の解説は異なっていた。次のような例をあげて説明していただけた。

万葉集卷二〇の四三七〇に阿良例布理 可志麻能可美

乎 伊能利都々 須米良美久佐余 和例波伎余之乎（霰降り 鹿島の神を 祈りつつ すめら御軍に われは来にしを）が載る。ひとつ前の四三六九は都久波称乃 佐由流能波奈能 由等許余母 可奈之家伊母曾 比留毛可

奈之祁（筑波嶺の さゆるの花の 夜床にも 愛しけ妹
ぞ 昼も愛しけ）。

通訳すると、四三七〇の方は「あられが降ってかしましい——そのかの音を持つ鹿島神宮に武運長久も祈り、天皇様の兵士として私はやってきたのだ」と決意の程を示す。対して四三六九は「筑波山に咲いている美しいユリの花よ。その花がかわいくてならない。そのユリのユと同じ音を持つユトコ（夜床）と一緒に寝た妻がいとしくてならない。夜だけでなく、こうやっている昼もいと



おしくてたまらない。」

この二首が同一人の作と聞かされたときには一驚。同時に防人歌の大半が故郷での自然の風物、両親や妻子との別れの悲しみを詠んだことを知った。

約四千五百首からなる万葉集の九割三分は短歌。ひらがな、カタカナが登場しない大昔の作品だから、短歌のほとんどは漢字を一字一音に改めて日本語詠みさせた万葉仮名でつづってある。その例が四三六九、四三七〇で示した三十一（みそひと）文字。ただし例外が十二種ある。たとえば——年切 及_レ世定 恃 公依 事繁の漢語十文字で「年きはる 世まで定めて 恃めたる 公によりてし 言の繁けく」のみそひともじで詠ませるのが三首（ナンバーは二三九八、二四四七、二四五三）。

——是量 戀物 知者 遠可_レ見 有物 の十一文字で「かくばかり 戀ひむものとし 知らませば 遠く見つべくありけるものを」と詠ませるようなケースが十四首（二三七二、二三七七、一三九一、一三三九七、一四〇二、一四〇四、二四一九、二四二〇、二四五八、二四九八、二四九九、二八四五、二八四八、二八五二）。

この原稿を書くに当たって、講師がこちらにだけこっ

そり渡してくれたコピーにそうあったのだから事実には違いない。平安以降、あまたの学者がこうした暗号の解読に努め、現在だれもが読める万葉関連書が本屋の棚を飾っている。でも「これにて一件落着」では決してない。人麻呂は一人なのか、それとも複数の柿本部（垣ノ下）の作なのか、学者の論争は終わったわけではない。

『層富No10記念号』に万葉集講座阿呆陀羅經と題した松岡講師のおもしろい一文があった。『万葉集』は面白い
ああ そうかいな そうかいな で始まり、『万葉集』は奥深い
ああ そうかいな そうかいな ちゃかばこ
ちゃかばこ が結語。ユーモアに富み、興味深く読んだ。しかし、何か物足りなかった。講師の資料作りのご苦労が全く抜け落ちていたから。阿呆陀羅流にそれを追加して終わりとする。

資料づくりはむずかしい

下書きないからむずかしい

便利といわれるコンピューター

それでも昔の漢字は出てこない

仕方ないから作字して

恋は戀やと教え込み

難解漢字をインプット

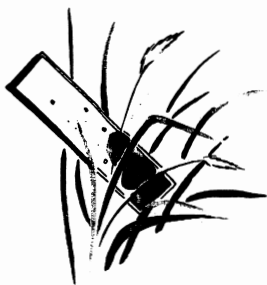
あれかれ考えキーを打ち

応えたときの喜びは

大きいけれどややこしい

ついでに 東方出版が昨年十二月十日を初版本とする

『奈良大和路の万葉歌碑』を出版（228頁・2千円）。県内の万葉歌碑205基を平城ニュータウンを巻頭に写真、拓本、小解説付きで紹介。揮毫者には犬養孝が目立つが、中には司馬遼太郎や島崎藤村の筆も。圧巻は柿本人麿歌集を独特の版面体で彫り込んだ棟方志功の作品の写真。会員・西島芳子さんの提供。



英語講座

山田 洋子

英語を学べる機会と触れ合いを求めて、英語講座に入学し、四年が過ぎようとしています。鎌田時栄先生のご指導のもと、第一・第三・土曜日の午前九時半から十二時まで、原則として平城東公民館にて開催しています。

前半の初級クラスでは、中学三年生の旧教科書をテキストとして使用しています。後半はハイレベルの中級英語です。私には難しいので前半で帰ろうと思いつつ、初級から引き続いているアットホームな雰囲気にとられて、早四年、最後まで参加し楽しく学ばせて頂いております。中間では、英語の歌の聞き取りや近況報告を兼ねたフリートーキングなど、その時々で楽しい息抜きの時間を設けて下さいます。

英語だけでなく、私達は年二回の食事会で親睦を深めています。夏は外食ですが、新年会では、皆さん腕に力をかけての一品持ち寄りです。男の方は奥様手作りの品を持ち寄られ、パン、ケーキ、中華まきなど、豊富なメニューが用意されます。英語の短文暗唱の後、待ち



新年会 平成11年2月6日 ならやまコミュニティーセンターにて

Don't flap a fly
It's chafing to beg life
Its hands and legs.
やれうつなはえが手をする足をする 千恵子

A fine autumn day,
My grandson like my son
Was born in safety.
天高し吾子そっくりの孫生まる 弘子

By the Biwa Lake
A breeze rippled surface of it
I stand still seeing it.
琵琶の海水面のさざ波い立ち見る 啓子

In the Nara Park,
Cherry blossoms will bloom
Very very soon.
奈良公園もうすぐ開く桜花 百合代

The good fortune,
I get by eating the rice cake
On Omizutori.
幸せをお壇供(だんぐ)で貰うお水取り 浄

It's a little warm
Several anglers
Are around the lake.
水ぬるむ釣人ふえる池の端 敵

Petals of pansy
Purple sparkled in the sun
Expect my son to come home.
パンジーの紫輝き子の帰省待つ きくえ

In the spring sunshine,
Blossoms of purple magnolias
Have just come out.
春うらら紫もくれんの芽ほころびぬ 洋子

In the early afternoon
I walked to the Suzakumon
As nipping a horsetail one by one.
昼下がりがつくしつみつみ朱雀門 みどり

Blowing a spring wind
There are storms of cherry's petals
In my garden.
春風やわが庭に吹く花ふぶき 時子

It is early spring now
I found the green of the fukinotou
Through the light snow.
淡雪を透かして青きふきのとう 洋子

The side of Chuo Line
I wonder it would bloom,
Now white magnolia.
線路わき咲いているかなこぶしの花 和子

In the spring breeze
Colorful tulips in HUIS TEN BOSCH
Are rustling.
チューリップさやさや揺れるハウステンボス 房子

Frogs called each other
They're asking when to come out
In holes near a stream.
せせらぎに春待つ蛙の声流る 道子

Behind a small spring
In young grasses and mountains
Cherry blossoms are.
湧き水に若草は山桜咲く 英士

They are whirling in the sky
A group of dandelion fuzz
I wish them good luck.
空に舞う綿毛の群れの明日想う 賢代

Pollinosis
Mask covered
Kiss mark.
花粉症 マスクが隠す キスマーク 仁

A cherry tree moved from hometown
Is now in full bloom beautifully
Here in Heijo, my town.
故郷より 移せし桜 平城に咲く 時栄

に待った食事の時間です。私は、人生経験豊かな話を聞かせて頂けるのが何よりの楽しみで、時の経つのも忘れたいと思います。

また、今まで文化祭に参加していなかったのですが、今年は参加し、英語の歌を皆ではりきって歌おうと、現在選曲中です。ご期待ください。

当講座は、老若男女皆楽しんで学んでいます。長老の片桐さんが脱退されて、大変寂しく残念でなりません。でも漢詩では毎回活躍され今後も楽しませて下さることを思います。

最後に、英語の俳句にチャレンジしました。字足らずあり、字余りあり、気持ち優先の俳句になりましたが、ここに掲載させていただきます。

手踊り同好会

毛利 公子

一九九八年、十一月三日の文化祭には、皆様なじみの曲「まつの木小唄」を、手拍子いただきながら、楽しく踊らせていただきました。

右京集会所が、新しく広くなり、名前も改め、ふれあい会館となりました。五月ともなれば、新緑とさつきの花に囲まれ、気分もうきうき出かけて行きます。

本当にぼちぼちですが、「山中ぶし」と、吉幾三の「酒よ」を、練習しています。

踊りに興味のある方、第一と第三の金曜午前中、遊びがてらのぞいてください。はじめての方、大歓迎です。

写真同好会

寺嶋 勅雄

平成十一年三月現在、男性十三名、女性五名の計十八名の初心者からベテランまでが、仲良く、ほぼ毎月一回の撮影会を催しています。また、正規の撮影会以外にも会員同志写したい被写体が一致すれば、誘い合って撮影を楽しんでいます。

ちなみに、平成十年五月二十四日(日)文化協会の総会以降の活動を上げれば、六月二十日(土)三室戸寺宇治へ、蓮と紫陽花。九月十九日(土)石舞台く稲淵へ、彼岸花と棚田。十月二十四日(土)～二十七日(火)文

化祭に展示。十二月二十日(日)例会。

平成十一年一月二十四日(日)石光寺〜当麻へ、寒牡丹と冬牡丹。二月十四日(日)例会。三月十四日(日)北野天満宮へ、梅。四月十一日(日)白毫寺〜奈良公園へ、椿と桜などを行っています。

そして、今までは電話連絡で活動を会員に周知していましたが、今年一月から会報を発行することになり、スタイルも決まり、四月から月一回、報告と行事予定などを掲載し、発行しています。

写真は被写体だけでなく人物、花木、野山、都会、天体祭り、寺社、史跡、夕景、夜景など多様で、撮影もオート、シャッター速度優先、絞り優先、マニュアル、日中シンクロ、スローシンクロ、長時間露光、多重露光などがあり、作画のために前後、後、各種フィルター、構図、シャッターチャンスなど、知識と感性が要求される、入り易く、奥の深い趣味です。

どうぞ、あなたもスナップ写真や記念写真だけではなく、ちょっとすてきなしゃれた写真を撮ってみませんか、愉快的な仲間があなたを、お待ちしております。



1999年1月の撮影会 当麻寺にて

拓本を楽しむ会

西山佐代子

昨年の秋、萬葉歌碑一基が建立されました。

高ノ原駅附近に、三基となりました。奈良市内に、現在二十五、六基が立てられているとの事です。

「春日なる三笠の山に月も出でぬかも

佐紀山に咲ける櫻の花の見ゆべく」

巻一〇一―一八八七 作者未詳

採拓は、自由になっております。

十年度の文化祭は、十月二十五日より十一月三日まで、北部出張所会議室にて、盛大な内に終わりました。

拓本の部は、十月二十五日より二十七日の三日間です。長老宗徳さん以下、十九名の出展でした。

又十年度の採拓活動は、中休みと云った形になってしまいました。七ツ道具を背負って行くのが、一寸重荷になった感じがします。

大阪 阿部野神社 有志

桜井 相撲神社 有志

三ヶ月毎に顔合せをする事

情報交換をする事

グループ毎に気の向くままに採拓に行く事

只今、話合いの最中です。

採拓も、簡単に出来る乾拓もあります。乾拓用の、つりがね墨も、文具屋さんで手頃に手に入ります。幼い頃、コインを鉛筆でこすり型を取って遊びました。

旅に出ます時には、必ず、和紙とつりがね墨を用意して行きます。一九九六年、オリンピックは、アメリカのアトランタで開催されました。私は、五月六月の花の咲く頃に参りました。アトランタは、町毎に林の中に佇ずむ静かなリゾート都市でした。何か英字の入った看板でも思っていたのですが、見当りません。そしてジョージア州の北部にある、ロックンテュー公園にて道標を見つけてました。岩山の山頂でしたがそろそろ紙を拡げて、つりがね墨をつけはじめますと、近くにいた人々が集まりました。何とか型をととのへて、皆さんにお見せしました。「とてもよい絵が出来た」と拍手をしてくれました。思ひがけない事で旅の良い想出となりました。

又、アトランタに御縁があつて旅をし、孫たちも、現地校にお世話になりましたので、オリンピック公園に敷

かれるブロック一枚を寄付しました。残念ながら、公園の仕上げる前に帰国しましたので、実物は見ておりません。何時の日か訪れる事があれば、私の名前の入った、ブロックを採拓して来たいと思っています。

十一年度は、三輪山麓へ、又伊丹の昆陽池に、月ヶ瀬への採拓を、実現させたいと思っています。

御自由に、是非、拓本を楽しみむ会にご参加ください。



万葉集 卷10-1878



絵画の会

西村 通弘

私がこの会に入会したのは、今から約二年前のことです。入会の動機や入会後の体験や感想をまとめてみました。これが当会の一側面を紹介していることになれば、更に入会をお考えの方へのご参考になれば幸いです。

さて先ずは入会の動機についてですが、約四十年のサラリーマン生活にサヨナラして、これまで手掛けたことのない色々なことをしてみようと考えていたころのことでした。ある人が私にこう言って呉れました。脳の左半分は長かったサラリーマン生活で疲れてしまっているかも知れませんが、右半分はこれからしっかり使って活性化させてやりなさい。それで丁度左右のバランスがとれることになるのですよと。私には脳の構造のことは全く知りませんが、この方のおっしゃるには、大雑把ではあるが、左半分は理性的なことを、右半分は感性的なことを支配しているのだそうです。この右半分を活性化させる具体的な方法の一つとして、絵を描いてみてはどうかと奨めてくれました。絵画らしきものとしては中学校の

図工の授業以来、完全にご無沙汰の状態でしたが、絵を描いておられる方々の姿がとても楽しそうだったことも手伝って入会させていただきました。

前置きが長くなりましたが、ここからは入会後のことについて述べてみたいと思います。当然のことながら、入会当初は初対面の方ばかりでしたが、ありがたいことにいつの間にか仲間入りさせて頂いていたといった感じで、先生や先輩のこまやかなご配慮のお陰だと感謝しております。とはいっても絵画クラブですから絵をかかなければなりません。初心者の中にはこの点は難題でした。暫くは先輩のやることをながめながら自分にできることを少しづつやってみました。こんなことでは月四回の例会が苦になりだすのではとの心配もありましたが、今では会員の皆さんと雑談を楽しみながら過ごせるようになりました。

ところで、この会での大切なことを一点だけ記しておきます。このクラブのモットーについてです。『他人の真似をしないで、自分流のやり方で描くこと』これは梶野先生の基本的な姿勢です。この件では私は次のような勝手な拡大解釈をしています。『上手、下手は全く気に

しないで、自分で好き勝手に描くことである」と。

冒頭に書きましたが入会して約二年が過ぎました。日曜日の朝九時、入会前は日曜討論を見ていましたが、今では日曜美術館を興味をもって見るようになりました。

意識に少し変化が現れたのでしょうか。私の左右の脳は少しはバランスがとれてきたのでしょうか。まあそんなことはどうでもいいことです。むつかしいことは考えないで好き勝手に描き続けようと思っています。

最後にアンケート五項目

- 一、例会は楽しいか。……………〈○〉
- 二、コミュニケーションは。……………〈○〉
- 三、絵がかけられるようになったか。……………〈△〉
- 四、これからも続けるか。……………〈○〉
- 五、女性は美人か。……………〈◎〉

—おわり—

園芸同好会

北村 孫衛

花 紀 行

時は廻ってまた、この原稿に向う季節となりました。

新鮮な感動が生き甲斐だと思える年齢になって、土に親しむ時間が年と共に、長くなる様に思えます。

園芸同好会も、季節毎に出る目新しい花にチャレンジの話題で一杯。特にヨーロッパやメキシコなど外国が原産地の花が数多く出廻っています。上手に育てるには原産地の気候、風土、に似せるのが良いのですが、知らずしては皆さんに、語ることが出来ません。今年は地中海沿岸と決めて、南イタリアに花紀行に出掛けました。丁度奈良も東大寺他、世界遺産となりましたがイタリアも遺産の宝庫、紀元前の話ですから嬉しくなります。その遺産の周辺は、赤いポピーや黄花エニシダ、袋ナデシコ、アザミ、ハーブの類、その他とりどり、花好きの身には上より足許に目がいきます。

この花々は、山岳丘陵地帯、田園牧草地にも及びます。

黄花エニシダは、日本では多湿のため数年で枯れますが、雨の少ないイタリアでは、群生また点在して山肌を彩っています。ポピー（ひなげし）も路傍を赤く彩どる他、牧草地、麦畑の中を問わず咲き乱れて、目が点になる思いました。

でも同行の皆さん、乗物はゆりかごと心得て、車中はひたすら眠る時間で、外の景色は夢の中。眼を閉じるのは心を閉じるに等しい位に勿体ない。国内ならば兎も角、遠いイタリアの田舎ですから、再びめぐり逢うこともありますまい。

感動と元気は、向かい合ってこそ受けることが出来るものですから、せめて旅行中は、買物（商品）に向ける眼差しを、もう少し外に向けて欲しいなあ………と思いましたが。これも花作りに親しむ様になると、自然と外の景色に目が行きます。

山野にある花、公園の花、人様が育てている花と共に長寿の時代・自分の今在るを慈しみたいと思います。

園芸同好会でガヤガヤ言っている時も、生け花を教えている時間も、お茶で対峙している時も、慈しむ心は変わりません。

次の例会が心待ちの園芸同好会です。

料理を楽しむ会

川端和加子

料理を楽しむ会に途中から入れて頂いて、早や一年以上経ったと思われまます。

この会は特定の講師が決まっていなくても拘わらず、毎回仲間が得意な料理を出しあって、何種類もの季節料理も取り入れたメニューで、昼のランチとしては盛沢山で美味しい昼食を短時間ですが、雑談し乍ら楽しくいただいています。

昨年八月は、京都の円山公園の高台にある料亭「左阿彌」で、古都の風情を込めたお昼の京懐石を賞味させていただきますました。ここの料亭は、その昔文人や墨客などが好んで集ったらしく、今なお歴史や文化の香りが鮮やかに残されています。その日は十数名だったと思われますが、暑さも気にならない位満足出来た一日でした。

九月に入ってからでも、ずいぶん沢山なお料理を作り、楽しくいただきました。今、その一部を紹介致します。

九月には、ちりめんじゃここと青じそのスパゲティ、ヨーグルトのサラダ、ティタイムに取っておきのチーズケーキや、かぼちゃのムース。

十月は山菜ご飯、いかの鉄砲煮、スイートポテトなどでした。

十二月は、お正月料理で、鶏みそ松風、鮭なんばん漬、松笠くわい、百合根まんじゅう、五色なます、等々の素晴らしい献立を賞味する事が出来ました。我が家でも早速お正月料理のメニューに加え、早々に訪れてくる子供達にも自慢の腕をふるったものです。

年が明けて、一月は具雑煮や干草なます、続いて、ロール白菜のカレー煮、にんじんゼリー、次はちらし寿司田舎風、茶碗むし、おはぎ等々。

毎月がやがやと楽しく作っては食べる会となっております。

これからも仲間の方々と、和やかに心をこめて珍しい料理や新しい料理メニューを持ち寄って、作っていきたくて思っていますので、どうかお気軽に参加してみてください。

山歩 き会

酒井不二夫

私は山歩き会が発足して以来のメンバーです。第一目の月例会は昭和六一年五月で、行き先は岩湧山であったことをよく覚えていきます。

それ以前の私は、歩くことは嫌いな方ではなかったのですが、散歩かせいぜいピクニックを時々楽しんでいただけでした。第一回目の参加で、私にも出来そうだという印象をうけましたので、以後続けることとし、そのまま今日に至っています。

山歩きを始めた当時、私はまだ四八才で、すでに中年になっていましたが、まだ年齢相応に元気がありました。リーダーの西幹さんも若く、健脚そのものでした。また、当時はたとえ雨が降るとわかっていても、集合時刻に降っていないければ決行することになっていたようでした。そのため、雨具を着用して歩くことが結構多かったように記憶しています。また、いくら歩くのが趣味とはいえ、私自身も、ついスピードを競うような傾向があり、そのため景色をろくろく見る余裕もなかったように思います。

それでも今日まで続けているのは、山歩きが楽しかったためです。

この十三年間、主に日帰り可能な千メートル前後の近畿の山を歩きました。金剛・葛城山系、比良山系、京都北山、六甲山系などが主な行き先でした。当然何回となく歩いた山が多くあります。しかし山は何度訪れても新鮮に感じられるものです。季節によって異なる姿を見せてくれるのももちろんですが、同じ季節でもその都度新発見があり、気分爽快で、楽しいものです。そのようなわけで、次第に月例会のほかに個人で、あるいは気の合った者と誘い合わせて山歩きをするようになりました。

最近では「中高年の山歩き」が盛んになりましたが、それとともに登山道の整備も進められています。地元の方々のご苦労のほどがしのばれて感謝しますが、その結果、たとえば金剛・葛城山系では、いたるところに丸太の階段ができてしまいました。正直なところ山道はやはり自然のままの方が歩きやすいように思います。

また金剛・葛城山系など奈良県の山では、昨年の台風によってなぎ倒された木が多く、とくに風の通り道では壊滅的な姿をさらしており、それがいまだに放置されて



いる光景が随所にみうけられるのは、痛ましい限りです。子孫のためにも一日も早く復旧することを願わずにはおられません。

私は今では定年退職後1年を過ぎました。私もまさに中年を通り越して「高年のトレッカー」となりつつあります。同時にメンバーの高齢化も進みつつあるように思っています。テレビの影響もあって、加齢だけが理由ではないのですが、メンバーの間にステッキも普及しました。ステッキはとくに下りには重宝で、膝への負担を軽減してくれますので私も愛用しています。

私も最近マイペースで歩きながら、景色を楽しみ、小鳥の声に耳を澄まし、山野草にカメラを向ける機会が以前に比べて徐々ではありますが増えつつあるように思っています。昨年は「下山後の温泉入浴シリーズ」が計画されましたが、良い企画で毎回が楽しみでした。このように山歩きのすばらしさは、単に歩くことの喜びだけでなく、自然のもたらしてくれる多くの恵みをエンジョイできるところにあるということが加齢とともに次第にわかってくるようになってきました。

これからも山歩きを続け、新たな楽しみ方を見出して

ゆきたいと考えています。

押花を楽しむ会

若原 和子

平城ニュータウン文化協会会員の皆様にはそれぞれの講座にお励みのことと存じます。

今回押花についての原稿を頼まれ、何を書いたら良いのか戸惑いを感じながら筆をとりました。

押花をしておりますと、四季の移り変わりに関心が深く、美しく咲いた草花に対して心のときめきを感じます。寒い冬が終れば桜や、すみれやパンジー、菜の花が野山を飾り、そして花水木、こてまり、ばたん、しゃく葉の季節へと移ってゆき、それがやがてあやめ、しょうぶの夏へと変わります。又雑草のなかにも可憐な花が咲いているのを見つけるとこと更嬉しく思います。

秋から冬にかけて枯れ木や枯れ草だった木や花が、季節がくればみずみずしい葉や花がでてくる自然の力に毎年感激してしまいます。

時がたてば枯れてしまう短い命の草花を、何とかして

美しさを長く残したい気持ちで押花を作ります。

額や、色紙、箸袋、コースター、しおり等日常使うものに美しく押花にした物を飾ったり、又押花で作ったブローチを自分の胸に飾るとき、どんな高価な宝石をつけるよりもうれしく、心がなごみゆたかな気持ちにさせてくれます。

作品が上手でなくても、美しい花を出来るだけ美しく残したいと言う思いと、花を愛する気持ちでつくりました作品に対して、私は満足しております。

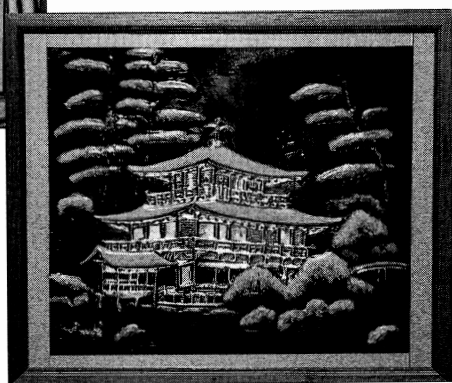
最後にニュータウン文化協会のため、ボランティアで色々お世話して頂いている方々、講座の先生に、心から感謝をし、お礼を申しあげたいと思います。

銅（あかがね）の会

山崎 明

銅板レリーフ同好会が発足して、二年の歳月が流れました。

当初は先生の説明が呑み込めず、うわの空でやることはへまばかり……。失敗の連続で、とても作品になるか



あぶないもので、内心はびくびくものでしたが、先生の懇切な御指導により近頃やっと要領も分り、人前に出せるような作品が出来るようになり、ほっと一息というところでです。

次の作品の図柄をどうしようかと思案投首で日々を追っています、これも又楽しみの一つとなり、時間を持てあますことなく過ごせるようになりました。

教室では仲間の人達と、わいわいがやがやと楽しくやっているうちに時間が過ぎております。近頃は仲間も増えてまいりました。教室は平城西公民館の会議室で、毎月第一、三の金曜日一時半より四時迄でやっております。興味をおもちの方ちょっと覗いてみませんか!!



表装の会

西島 芳子

「表装の会」のグループ便りは、『層富』十六号の誌上で初御目見えすることになった。正式に文化協会の講座・同好会一覧表の末尾にその名稱が記載されてから一年が過ぎた。正式に……というのは、そのほぼ三年ぐらい前から「拓本を楽しむ会のなかの表装の会」として一応の活動をしていたからである。

「拓本を楽しむ会」の前会長渡辺さんは大変面倒見のよい方で、会員のだれかれを問わず、御自分の仕事を開放して、それぞれが採拓してきた作品の掛軸作りを指導してこられた。無論報酬などは取っておられなかった。その御蔭で何人かの人達は、文化祭などに出品する拓本の軸装は、結構自分でこなされている。

私も一九八八年に「拓本を楽しむ会」に入会し、少しずつ採拓にも慣れてきた頃、裏打ちと軸の作り方を教わった。材料はすべて用意されており、使用する刷毛、ものさし、定規、など道具類の一切を借用し、その上肝腎なところは大方やって貰い、その上仕事が終れば奥様の入

れて下さった御茶と美味しい御菓子が待っていた。御二人には本当に色々とお世話話になり、その御厚意は今でも忘れることはできない。

その後渡辺さんのおすすめもあり、私自身も掛軸作りに興味を覚えたので、奈良の朝日カルチャーセンターの「裏打ちと表装」という講座で、一から勉強することにした。先生は京都出身で藪田夏秋と言われ、その指導の方針は京表具に準拠し、誰にでも少し訓練すれば出来るように、先生なりの工夫を取り入れた技法で多くの生徒を教えておられる。また昔から床の間にしか飾られてこなかった掛軸を、現代の建築様式にもマッチするよう、新しい掛軸の形態を模索し今日まで数々の斬新な作品を発表してこられた。そして現在では専門の表具師でさへあまり使わなくなった和紙に、需要がなければいつか廃れていくとの危惧感から、素晴らしい和紙を守っていく一助にもと、教室の生徒さん達には高価で勿体ないことを御承知で、薄美濃紙・美栖紙・宇陀紙を使って指導しておられるのである。講座のほうは、初級・中級・上級・研究科へと進み、四年間通って一応掛軸の基礎から応用まで習得することが出来た。

「カルチャーセンター」を止めたあとに、渡辺さんから「自分の代りに藤原さんに掛軸の作り方を教えて上げて貰えないか」との御依頼が度々あったが、私もまだまだ未熟な技術で人様の指導にあたるなど、とても自信が持てなくて断り続けていたのだが、とうとう引き受けざるを得なくなってしまった。そして藤原さんと打合せの日に御宅に何うと、藤原さん一人と思いきや、岩井さん、土井さん、土岐さんの三人も見えており、一緒に習いたいとのこと、全く予期しないことに戸惑ってしまった。だが四人とも「拓本を楽しむ会」の会員なので、同じ身内同志、是非にと言われれば厭とは言へぬ性分も手伝って、とうとう四人から先生と言われるようになった。ところが四人ともなるとちゃんとした仕事場が必要となり、北部出張所会議室の使用を申し込んだところ、文化協会の講座でないから貸すわけにはゆかないと断られ、それならばと窮余の一策、「拓本を楽しむ会」の現会長の込山さんに御願いし御許しを得て、「拓本の会のなかの表装の会」として会議室を借りることができるようになった。

このときの込山さんの御積りでは、多分文化祭に出品

する拓本の掛軸でも作りたいのだろう。一本か二本作れば終りだろうから……。という軽い御気持で承知して下さったらしい。ところがこちらのほうは親の心子知らずで、作品も最初の拓本だけという規則より逸脱して、各自が思い思いの作品を持ってこられ、また新加入の会員もあり、私としてもやめるにやめられない状態で夢中で過ごすうちに三年近く経った。この頃になると拓本以外の人達の問い合わせもあり、会員は「拓本を楽しむ会」に入会している人だけとは言っておられなくなり、もう

このあたりで独立した会として、他分野の人にも門戸を開いたらという御意見もあり、私も寄らば大樹の蔭といった安易な気持で、何時までも込山さんや「拓本を楽しむ会」の御荷物になっていてもいけないと決心し、文化協会の事務局の御配慮も頂いて、一九九八年度より文化協会の新講座「表装の会」として新発足することになった。今年度の文化祭では当会として始めて八人の出品作が展示された。大和仕立・袋仕立・茶掛・台張り表具・佛表具・創作仕立など様々の仕立方で、本紙も自分の手になる書あり、水墨絵ありで、なかには六・七十年前前の半切の書で、虫喰いのあとを補修して仕立てたものもあっ

た。初めて作った一本目の作品もあり、技術的にはまだまだ至らない点も多かったが、最初としては評判もよく成功だったと自画自賛している。

そのとき展示を見にこられた人のなかに、この会は表装を鑑賞する会ですか。作る会ですか。と尋ねられた方がおられたそう。あとでそれを聞いて思いがけない質問にびっくりしたが、考えてみると成程尤もだと恐れ入った次第である。

実は「表装」という意味は、軸装・額装及び巻物・屏風・襖などを捲えることを言うので範囲は広くなる。我々がやっているのは掛軸を作ることだけなので、「表装の会」というのは正しいとは言えない。何れ機会をみて「掛軸を作る会」に改称したいと思っている。

掛軸を作りだして十年、渡辺さんに教わって作った最初の一本を含めて、百八十本ぐらいの掛軸を作ったのだろうか。カルチャーセンターで四年間、藪田先生について学んだこと、そして十年間を経て、失敗も重ねながら自分なりに会得したものを、皆さんに分かち与えながら、自分もまた人を教えるということで、勉強させて貰っているのである。

フランス語講座

高松美枝子

「ボンジュール！」

この挨拶で始まるフランス語講座、週一度の私の楽しいひとときだ。

フランス語の美しい響きに誘われて、フランス語を習い始めてもう何年になるだろうか。長く勉強している割にはちっとも身につけてない私のフランス語であるが、いつも楽しく勉強してこられたのは、やはり先生方のお蔭だと思っている。

現在、高橋、根来両先生がお忙しい為、私達でNHKラジオフランス語のテキストで自主学习をしているが、時にはいいカセットがあったからといって、持ってきたカセットを皆で聴き、フランス語におこして訳したりする。又、聴きとれなくて何度も何度もくり返し聴いてしまうこともあるが、ああでもないこうでもない、とワイワイ言っている内に一時間半はアツという間に終わってしまうのだ。

全員主婦なので、おいしい食べ物の話や旅行の話には

事欠かない。勉強そっちのけで話はずんでしまう事もあるが、今、フランス語の勉強(?)の為にフランス旅行も計画中である。又年に数回、グルメも楽しんでいる。来年、根来先生が大学を卒業なさるので、先生の授業を私達は心待ちにしている。

野草をしらべる会

前川 良雄

一九九九年の春がきました。あと一年で二〇〇〇年になります。野草は寒い冬が過ぎ暖かい三月になるとつきつぎと花を咲かせます。ここ平城ニュータウンでは、ふれあい大橋や、右京小学校の北側のどてやら、三号公園の道端に野草がたくさん生い茂っています。

なかでも一番に花を咲かせるのが犬のふぐり、大犬のふぐりで、可愛い紫の小さな咲が霜に負けず咲いています。つづいて白い花の咲くハコベ、ヤエムグラ、ぎしぎし、ほとけのぎ、セリ、ナズナ、スズナ、スズシロ、ツクシ等々、

現在の子供たちは、サッカー、野球等の遊びはするが

ツクシトリ、スカンボトリ 草イチゴとり、草笛鳴らし、スモウとりぐぎ、等々の野草遊びをしているのを見たことはありません。時代の流れと共に子供たちの遊びも変化しつつあることが感じられます。

これらの雑草の名の由来をしらべるのもまた興味があります。ハハコグサはオギョウといわれます。フキはせき止めの薬草、タンポポは葉と花は食用になり根は薬草になります。オオバコは草の葉が広いという意味で、中国では車前草と書いて車の前にはえる草という意味です。人がふみつける所を好んで生えて、葉の汁がはれもの等にききます。スミレは大工の道具スミイレに似ているのでこの名がついた。カタバミは葉の一部が欠けているから、種はホウセンカのようにはじき飛ばされます。カラスのエンドウは黒く熟した実がカラスの黒い色に似ているから、これの若菜は山菜になります。レンゲ草は中国産で室町時代に渡来した。ハスの花に似ているのでこの名になった。花葉、茎は食用です。また肥料として役立ちます。シロツメ草は別名クローバーといわれ、江戸時代に入ってきた草で代表的な牧草で良質の蜜がとれます。ヘビイチゴは蛇が食べるといわれ毒草です。ナズナは春

の七草の一種でベンベン草ともいわれる。ミミナ草は葉がねずみの耳に似ているところから、ウシハコベは普通のハコベより葉が大きいので、スイバは葉に酸味があるので、食用になるが食べ過ぎると下痢する。根は薬草になる。シャガ、アヤメ、ノビル、スズラン等があります。スズメノテツポウは草笛になる。チガヤの根と茎は薬草、ドクダミは毒と痛みにきく薬草で、おできや皮膚のただれにききます。

以上のように野草はいろいろな面で役に立っています。



第十六回文化祭記録



上演の部

◎ 十一月三日(祝) 北部出張所会議室

◆ 箏 曲 「みづほのうた」 宮田耕八郎作曲

田頭雅千香 南湖雅千紗 古閑 弘美

比良 尚美 林 千鶴

菊池雅千絵

「飛鳥伝説」 水野 利彦作曲

比良 尚美 古閑 弘美 林 千鶴

田頭雅千香 南湖雅千紗

菊池雅千絵

「大楠公」 徳川 齊昭作

周藤 吉雄

「峨眉山月」 李 白作

津崎美津子 油谷 久枝

「舟中聞子規」 城野 静軒作

山路 慶子 中西 敬子 北村 幸子

「白帝城」 李 白作

小森 国弘 陣内 満子 岩井 静枝

◆ 詩 吟



「九段桜」 本宮 三香作

花田 清美

「常盤雪行」 梁川 星巖作

越智 信子 花田 克子

「奥の細道」 松尾 芭蕉作

中西 堤鼓 陣内 満子 岩井 静枝

小森 国弘 杉田 英二 周藤 吉雄

花田 清美 津崎美津子 海野 ミツ

油谷 久枝

「近江八景」 大江 敬香作

宗徳 岳宗 青山 堤源 柏木 堤宮

木村 堤泰 景山 知子

◆ギター演奏

中村 昭三
「哀歌」「エレジー」「最後のトレモロ」

「追憶のシヨロ」「深い愛」「天城越え」

◆万葉朗詠

大迫くき枝
「雨降りお月さん」

毛利 公子 島川恵美子 小森美恵子

山内 梅乃

「菊人形」 林 育子

「長良川艶歌」

島川恵美子

「磯の月」

小森美恵子

「佐渡の恋歌」

久門 富美

「舞いの道」

山内 梅乃

「まつの木小唄」

島川恵美子

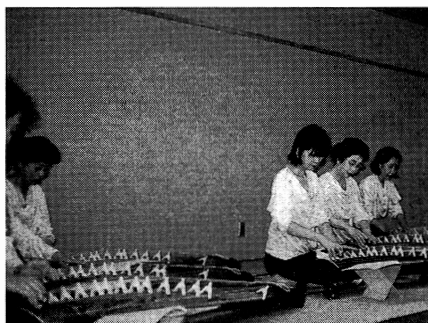
毛利 公子 小森美恵子

毛利 公子

山内 梅乃

「酒よ」

毛利 公子



展示の部

◎前 期 十月二十五日～二十七日

◆俳 句 牧野 春駒 牧野 和代 大浦小枝子

岡 良子 喜多 まさ 木村 長子

込山 山歩 周藤 智子 辻田しま代

南村 照栄 西田たまみ 西山佐代子

藤澤 陽子 堀池 敏子 森田 陽子

和田美代子 伊藤 柳紅 多田 文子

山内 梅乃

◆拓 本 込山 博介 宇野木久代 北本 敏子

黒田 節子 沢田 実子 鈴木 玲子

宗徳 郁雄 高橋 友示 高橋はる江

竹本 千鶴 南村 勝次 南村 照栄

西島 芳子 西山佐代子 平田 忠子

広田 省吾 堀池 光合 山田 正子

渡辺 亮斗

◆木目込み 谷口 直子 網千佐和子 石森千代子

押 絵 奥村 淳子 北 アサ子 鷺塚 順子



◆押

花 広崎 光子 榎原千鶴子 岡田 越子

河島美代子 木村 絢子 鈴木 幸子

高橋 笑子 西村 好子 西山佐代子

南村 照栄 林 美智子 松村せつ子

御手洗敦子 若原 和子

赤坐 右一 北側 勝 志智 英子

鈴木 昭弘 寺島 勅雄 藤本 和子

沼尻 侘

◆写

真 赤坐 右一 北側 勝 志智 英子

鈴木 昭弘 寺島 勅雄 藤本 和子

沼尻 侘

◎中 期 十月二十八日〜三十日

◆絵

画 梶野 哲 青木 光子 赤井美津子

石川 和子 石崎 路子 上田 善次

大野 貞男 岡本 幸子 込山 嘉代

小西 淑彦 澤田 実子 島川 正行

高橋ゆかり 出口真喜子 南村 勝次

西村 通弘 広田 省吾 堀池 光合

山崎 明 山田 晴美 村岡ちい子

吉次 幸江

板 込山 博介 岡本 幸子 皆藤るみ子

黒田 節子 中村 一郎 西村 通弘

◆銅

板 込山 博介 岡本 幸子 皆藤るみ子

黒田 節子 中村 一郎 西村 通弘

◆軸 山崎 明

装 西島 芳子 稲葉 長輝 岩井 静栄

高橋はる江 土井 正子 藤原 香

水野 繁三 山本 康彦

◆木 彫 井ノ山一雄

◎後 期 十月三十一日〜十一月二日

◆短 歌 網干 善教 荒居 智子 宇野木久代

大浦小枝子 岡田 越子 柏原 英一

片桐 一夫 木庭 和子 澤田 実子

玉置 小代 寺嶋 勲雄 中川都哉子

福井 秀子 藤原 香 森田 陽子

◆宮作りの会 中野 昭三 赤井美津子 秋山 静

新司 輝江 榎原千鶴子 岡田 越子

奥村 淳子 北村 源子 幸路 喜代

柴田 静枝 杉山 啓子 林 美智子

広崎 光子 山元 洋子 若原 和子

◆パッチワーク 打田 照子 榎原千鶴子 岡田 越子

奥村 淳子 幸路 喜代 鈴木 幸子

周藤 智子 林 美智子 山内 梅乃

◆地 酒 山元 洋子 吉川 普子 若原 和子

◆園 芸 北村 孫衛

◆中国語 松村 如洋



宮作りの会

1999 (平成11) 年度

第17回 平城ニュータウン文化協会

日 時 1999年5月23日(日)

受付 PM 1:00

開会 PM 1:30

場 所 北部出張所会議室

I 開会の辞

II 会長挨拶

III 来賓祝辞

IV 議長選出

V 議 事

(1) 1998年度事業報告

(2) 1998年度会計報告・監査報告

(3) 1999年度事業計画

(4) 1999年度予算

(5) その他

VI 閉会の辞

第17回総会 記念講演

午後 2:30から

『邪馬台国とは』

講師 関西大学名誉教授

網 干 善 教 氏

懇 親 会

午後 4:00から



1998年度事業報告

- 1998年4月1日 ニュース1号発行
13日 右京自治連合会主催「歓送迎会について」会議参加
5月2日 歓送迎会参加 右京自治連合会主催
15日 協会報発行 全戸配布
24日 第16回(1998年度)総会
記念講演「キトラ古墳と高松塚古墳の壁画」 網干 善教先生
- 6月1日 ニュース2号発行
14日 セミナー「世界の植物園」 光岡 祐彦先生
7月11日 春の大和路見学 現地説明 網干 善教先生
14日 奈良市都市計画マスタープラン地域別懇談会参加
8月1日 ニュース3号発行
2日 常任理事会
9月5日 平城西公民館審議会
16日 右京自治連合会主催「秋の文化祭について」会議参加
21日 文化祭展示部打ち合わせ会
26日 ニュース4号発行
27日 右京小学校運動会出席
- 10月3日 観月の会
4日 右京自治連合会主催「ふれあい文化祭」企画会議
9日 協会報発行 全戸配布
9日 「層富」発行
18日 右京自治連合会主催「ふれあい文化祭」企画会議
- 10月24～11/3日 文化祭開催
24日 記念講演「パルミラ遺跡」 泉 拓良 奈良大学教授
25日 右京自治連合会主催「ふれあい文化祭」参加
俳句、短歌、パッチワーク、絵画、押し花、筥作りの会、写真、お茶席。
25～27日 前期展示の部 拓本、俳句、押し花、園芸、写真、押し絵・木目込み人形
28～30日 中期展示の部 絵画、銅版レリーフ、表装
31～11/2日 後期展示の部 短歌、パッチワーク、中国語、筥作りの会、地酒の会、園芸
- 11月3日 上演の部
詩吟、舞踊、箏曲、ギター独奏、
3日 ごくろうさん会
8日 秋の大和路見学 現地説明 網干 善教先生
15日 囲碁大会
- 1999年1月1日 ニュース5号発行
10日 「NT新春を祝う会」参加
2月1日 ニュース6号発行
3月20日 常任理事会

1998年（平成10年）度決算報告

平成10年4月1日～平成11年3月31日

【収入の部】

(単位、円)

項目	予算	実績	増減	備考
前年度繰越金	218,314	218,314	0	
会費	525,000	544,500	19,500	@1,500×363人
援助費	100,000	100,000	0	各自治連合会、自治会
寄付金	10,000	26,000	16,000	講師お礼戻り、講座助成金戻り
雑収入	6,686	3,331	△ 3,355	銀行利息 他
合計	860,000	892,145	32,145	

【支出の部】

項目	予算	実績	増減	備考
事業費	100,000	51,397	△ 48,603	文化祭、セミナー
助成金	81,000	81,000	0	講座、同好会 3,000×27
会議費	10,000	1,260	△ 8,740	会議、資料、他
広報費	450,000	459,975	9,975	会誌、会報、ニュース
事務費	7,000	21,866	14,866	事務用品、他
印刷、消耗費	80,000	78,750	△ 1,250	コピー機消耗品
通信費	5,000	2,310	△ 2,690	郵送料
渉外費	20,000	3,000	△ 17,000	協賛費、祝金等
雑費	20,000	7,163	△ 12,837	項目にない出費
予備費	17,000		△ 17,000	
積立金	70,000	70,000	0	特別会計繰入れ
小計	860,000	776,721	△ 83,279	
次期繰越金		115,424		
合計	860,000	892,145	△ 83,279	

特別会計 平成10年度積立（南都銀行スーパー定期 70,000円 H10年5月25日預け）
 備品 コピー機一台 LEODRY2540 9年6月購入 509,250円
 1998年度の会計帳簿その他会計関係書類等精査しました結果適正であると認めます。

1999年4月13日

幹事 東 勲 (印)
 幹事 西村 美佐子 (印)

1999年度事業計画

はじめに

当「協会」は、地域での日常的な文化活動を通して、地域コミュニティ・住民の親睦と和を実現していくために、当時の自治会・連合会の「街づくり」の方針のなかで結成推進されてきたものです。

この設立趣旨にそって、地域住民の多くの方の、参画を期するとともに、会員の研究創作発表、相互の交流などの場としつつ、地域文化の発展に、寄与することを基本としていきます。

また地域四自治連合会をはじめ、スポーツ協会、教育懇談会、地区社会福祉協議会などの各団体の活動とも連携して、ひきつづき「街づくり」に貢献していきます。

おもな計画

- 1 講演会の開催
総会記念講演
文化祭記念講演
- 2 セミナーの開催
- 3 会誌『層富』の発行
- 4 会報の発行（全戸配布）
文化協会案内号
文化祭案内号
- 5 ニュースの発行（隔月発行予定）
- 6 大和路見学会
春1回
秋1回
- 7 文化祭の開催
- 8 観月の夕べの開催
- 9 年間を通じて趣味の講座開催
- 10 その他

会の発展を期しての工夫など会員各位の、提案、役員会決定などにもとづき適宜事業を推進したい。

1999年（平成11年）度予算

【収入の部】

（単位、円）

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	115,424	
会 費	540,000	@1,500×360人
後援費	100,000	各自治連合会、自治会より
寄付金	10,000	
雑収入	576	銀行利息他
合 計	766,000	

【支出の部】

項 目	金 額	備 考
事業費	70,000	文化祭、セミナー他
助成金	81,000	講座、同好会の助成 @3,000×27
会議費	5,000	会議、資料、他
広報費	460,000	会誌、会報、ニュース他
事務費	25,000	事務用品
印刷、消耗品費	80,000	印刷機器消耗品、コピー
通信費	5,000	郵送料、電話代
渉外費	5,000	協賛費等
雑費	10,000	各項目に該当しない必要経費
予備費	10,000	
積立費	15,000	コピー機積立費
合 計	766,000	

講 座 ・ 同 好 会 一 覧

	定期講座・同好会	担 当 者	☎71局	曜 日 ・ 時 間	予定会場
1	歴史教養講座	網 干 善 教	6510	第2火曜日(10時~12時)	北部出張所会議室
2	古代史講座	鬼 頭 清 明 問合せ 西島芳子	2997 72-0335	概ね第4火曜日(14時~16時)	北部出張所会議室
3	囲碁同好会	野 田 清 鷹	5465	毎日曜日(13時~18時)	平城西公民館和室
4	木目込人形・押絵同好会	谷 口 直 子 問合せ 石森千代子	3183	第1・第3水曜日(10時~14時)	北部出張所会議室
5	読 書 会	問合せ 山内梅乃	1654	第4日曜日(10時~12時)	北部出張所会議室
6	中 国 講 座	松 村 如 洋	9605	毎木曜日(10時~11時半)	北部出張所会議室
7	詩 吟 の 会	吉本音市・西尾弘子 問合せ 花田清美	2787	第1・2・3水曜日(10時~12時) (13時~15時)	北部出張所会議室
8	地酒を味わう会	松 本 敏 夫 問合せ 鈴木昭弘	1690	第2土曜日(18時半~)	会 場 不 定
9	園 芸 の 会	北 村 孫 衛	0823	第4月曜日(13時~16時)	右京4-7-5
10	拓本を楽しむ会	込 山 博 介	5058	毎月1回 日時・場所は未定	
11	絵 画 の 会	梶 野 哲 問合せ 吉沢幸江	3295 4946	第1・3火曜日(10時~12時) 第 2火曜日(13時半~17時)	北部出張所会議室
12	俳 句 入 門 (平城山句会)	牧 野 自 然 問合せ 西山佐代子	1777 4950	第3木曜日(13時~16時)	平 城 西 公 民 館
13	短歌を楽しむ会	網 干 善 教 問合せ 木庭和子	3494	第3火曜日(13時半~16時)	北部出張所会議室
14	フランス語講座	根 来 良 子 問合せ 木庭和子	8253 3494	毎月曜日(10時~11時半)	北部出張所会議室
15	山 歩 き の 会	西 幹 友 雄	6102	第2土曜日(雨天中止の場合は第3土曜)	野 外
16	英 語 講 座	鎌 田 時 栄	3150	第1・3土曜日(9時半~12時)	平 城 東 公 民 館
17	万 葉 講 座	松 岡 禮 一	2964	第1月曜日(13時半~15時半)	北部出張所会議室
18	… … 歩 く 会	広 田 省 吾	0207	奇数月第4金曜偶数月第3日曜日	野 外
19	宮 作 り の 会	中 野 昭 三		第2・4月曜日(10~16時)	北部出張所会議室
20	野草をしらべる会	前 川 良 雄 問合せ 柏木一枝	6823 3202	春・夏・秋年に3回程度	野 外
21	パッチワーク研究会	打 田 照 子	2879	第2・4金曜日(13時~16時)	北部出張所会議室
22	手 踊 り 同 好 会	毛 利 公 子	1989	第1・3金曜日(10時~12時)	右京ふれあい会館
23	写 真 同 好 会	赤 坐 右 一	0111	概ね月1回土曜日・ニュースで通報	野 外
24	銅板レリーフ同好会	丸 福 修 問合せ 込山博介	5058	第1・3金曜日(13時半~16時)	平 城 西 公 民 館
25	押し花同好会	廣 崎 光 子	0774-73- 0702	第1木曜日(10時~15時)	北部出張所会議室
26	料理を楽しむ会	松 村 せ っ 子	9605	第1木曜日(10時~12時)	平 城 東 公 民 館
27	表 装 の 会	西 島 芳 子	72-0335	第2・4木曜日(10時~17時)	北部出張所会議室
28	先 史 学 講 座	泉 拓 良 問合せ 山内梅乃	1654	第3金曜日(15時~16時半)	北部出張所会議室

会 則

第一章 総 則

第一条 この協会は、平城ニュータウン文化協会と
いう。

第二条 事務局は、平城西公民館に置く。

第二章 目的及び事業

第三条 会員の研究・創作発表、知識の交換並びに
会員相互間及び他の文化団体との連絡提携
の場となり、総合文化に関する進歩普及を
はかり、地域文化の発展に寄与することを
目的とする。

第四条 前条の目的を達成するために、次の事業を
行う。

- 1 講演会・研修会・展覧会・発表会・文
化講座等の開催。
- 2 関連文化団体との連携及び協力。
- 3 研究の奨励及び研究業績の表彰。

- 4 会誌の発行。
- 5 その他目的を達成するために必要な事
業。

第三章 会 員

第五条 平城ニュータウンに在住又は勤務する者で、
協会の目的に賛同する者とする。会員の種
別は次のとおりとする。

- 1 正会員 年間会費一、五〇〇円
但し、高校生五〇〇円

- 2 賛助会員 この協会の趣旨に賛同する
者で年間会費五、〇〇〇円以上納める
個人又は団体とする。

二、会員の更新手続きは不用とするが会費
は総会後三ヶ月以内に納入のこと。但
し、二年間会費納入なき場合は退会と
見做す。

第四章 役 員

第六条 協会にはつぎの役員を置く。

会長一名、副会長三名、常任理事若干名、
事務局長一名、事務局次長一名、会計一名

理事若干名、監事二名。

第七條 理事は、正会員中より選出する。

二、会長、副会長、常任理事は理事の互選で定め総会の承認を得る。

三、事務局次長、事務局次長、会計は理事中より会長がこれを選任し、総会の承認を得る。

四、監事は会員中より二名選出する。

第八條 会長は協会を代表する。

二、副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は代行する。

三、理事は理事会を組織し、協会に関する事項を審議し執行する。

四、常任理事は理事会の決定に基づき業務遂行に当たるとともに、総会で決議した事項を執行する。

五、事務局次長は会務の遂行に関する理事会、常任理事会等の決議に基づき全般の事務連絡、処理に当たる。

六、事務局次長は事務局次長を補佐する。

七、会計は会計事務を処理する。

八、監事は会計帳簿を監査し、通常総会において報告する。

第九條 顧問・参与を置くことができる。顧問・参与は理事会の同意を得て会長が委嘱する。

二、顧問・参与は会議に出席して意見を述べることができる。

第十條 役員任期は二年とし、再任は妨げない。

二、補欠より選出された役員任期は、前任者の残任期間とする。

三、役員はその任期満了後でも、後任者が就任するまで、なおその職務を行う。

第五章 会 議

第十一條 理事会は必要に応じ会長が招集する。但し、

理事の三分の一以上から会議の目的を示して請求のあったときは、理事会を招集しなければならぬ。

二、理事会の議長は、会長又は会長の指名する者とする。

三、理事会は理事の二分の一以上出席しな

ければ議事を開き議決することができない。

四、理事会の議事は、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決す。

第十二条 常任理事は、会長、副会長、常任理事、事務局長、会計によって構成し、必要に応じ会長が招集する。以下理事会に準ずる。

第十三条 通常総会は毎年一回会長が招集する。

二、臨時総会は、理事会が必要と認めたと
き会長が招集する。

三、総会の議長は総会出席者の中から指名する。

四、総会の議事は、出席者の過半数をもって決し可否同数のときは議長が決する。

第十四条 次の事項は通常総会に提出して、その承認を受けなければならない。

- 1 事業報告及び収支決算
- 2 会計監査報告
- 3 事業計画及び収支予算

4 その他理事会において必要と認めたる事項。

第六章 会 計

第十五条 経費は会費並びに補助金、その他の収入による。

第十六条 会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。

第七章 会則の変更

第十七条 この会則は、総会の議決を得なければ変更することができない。

第八章 補 則

第十八条 この会則施行についての細則は、理事会の議決を得て別に定める。

第十九条 この会則は昭和五十八年二月二十七日から適用する。

一九九九年度
役員名簿

	會長	網干善善
	副會長	牧野自然
	事務局長	山内梅乃
會計	大浦小枝子	
監事	西村美佐子	
参与	川口勇	
常任理事	赤坐右一	
	石森千代子	
	上中敏央	
	打田照子	
	大迫くき枝	
	岡田越子	
	梶野哲	

鎌田時栄	北村孫衛	鬼頭清明	木庭和子	込山博介	鈴木幸子	田中幸夫	玉置小代	中野昭三	南村勝次	西島芳子	西幹友雄	西山佐代子	花田清美	廣田省吾	廣崎光子	前川良雄	松村如洋	松村せつ子	丸福修
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	-----

理事

毛利公子	渡邊馨	渡邊亮斗	大井政子	大工美智子	覚ゆり子	河村美智子	喜多正恵	北川尚子	澤田實子	柴田晃良	西岡智子	濱口光良	山下良吉	山田綾子	吉村惣五郎
------	-----	------	------	-------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------